

糠塚大開(2) 遺跡

—八戸環状線道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2005年3月

青森県教育委員会

糠塚大開(2) 遺跡

—八戸環状線道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2005年3月

青森県教育委員会

序

糠塚大開(2)遺跡は、八戸市の馬淵川と新井田川に挟まれた段丘上に位置し、八戸環状線道路建設事業に先立って、平成14・15年度に当センターが発掘調査を実施しました。

平成14年度の調査は、同市林ノ前遺跡の調査を優先させたため、延べ1ヶ月の調査で中断となりましたが、平成15年度の調査では、縄文時代前期を中心とした集落の一部が確認されました。発見された遺構は、縄文時代の貯蔵庫と思われるプラスコ状土坑などの土坑が中心ですが、遺構配置の傾向より、当遺跡から南東に延びる尾根状に、遺跡の主体部が展開する可能性を推測することができました。また、所属時期は不明ですが、炭窯と推測される遺構も発見されています。

この報告書は、これらの調査成果をまとめたものです。この調査成果は、当遺跡一帯の縄文文化を復元する一助になるものと思っております。調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、種々御指導・御協力を賜った関係各位に対し、厚くお礼を申し上げる次第です。

平成17年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所長 佐藤良治

例　　言

- 1 本報告書は、八戸環状線道路建設事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成14・15年度に発掘調査を実施した八戸市糠塚大開（2）遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 執筆者の氏名は文末に記し、自然科学分析等の依頼原稿については文頭に記した。また出土した石器の石質鑑定は佐々木辰雄氏（青森県立八戸中央高等学校教諭）に依頼した。
- 3 遺物写真撮影は、田中義道氏（シルバーフォト）に委託した。
- 4 本報告書に掲載した遺跡位置図には、国土地理院発行の5万分の1地形図を使用した。
- 5 基本層序及び遺構の土層注記には、小山忠正・竹原秀雄『新版標準土色帖』（農林水産省技術会議事室監修 1997・1998年）を使用した。
- 6 本書を編集するにあたり、下記の機関及び諸氏にお世話になった（順不同 敬称略）。
木村 淳一、小松 隆史、小松 有希子、小林 謙一、村木 淳

凡　　例

- 1 遺構の表記は、青森県埋蔵文化財調査センターで定めた下記の略号を使用している。

S B 握立柱建物	S D 溝跡	S E 井戸跡	S I 住居跡
S K 土坑	S N 焼土遺構	S Q 配石・集石遺構	S R 土器埋設遺構
S T 捨て場	S V 溝状土坑	S X その他の遺構	
- 2 掘図中の北方位は、座標北である。
- 3 測量法の改正により経緯度の記載方法が旧日本測地系から世界測地系2000に変更となつたため、抄録では両者の数値を併記しているが、挿図・本文はすべて旧日本測地系を使用している。
- 4 掘図の縮尺は、各掘図にスケールとともに示した。ただし、座標の表示のあるものについてはスケールを示していない場合がある。遺物実測図の縮尺は、土器：1/4、剥片石器：1/2、礫石器：1/4である。
- 5 掘図中で用いたスクリーントーンは次のとおりである。

遺物



タタキ



スリ

- 6 繩文原体の基本的な分類は『日本先史土器の繩紋』（山内清男 1979）に従つたが、観察表中ではその名称を一部略記したものもある。
- 7 写真図版の縮尺は不同である。

目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の概要

　第1節 調査にいたるまでの経過 1

　第2節 調査要項 1

　第3節 平成14・15年度調査の概要 2

第2章 糖塚大開(2) 遺跡の位置と地形・地質 7

第3章 遺跡の層序 8

第4章 検出遺構とその出土遺物 10

　第1節 検出遺構の概要 10

　第2節 検出遺構と出土遺物 10

第5章 遺構外出土遺物 21

　第1節 土器 21

　第2節 土製品 25

　第3節 石器 26

出土遺物観察表 43

第6章 まとめ 49

遺構写真図版

遺物写真図版

報告書抄録

奥付

第1章 調査の概要

第1節 調査にいたるまでの経過

八戸環状線の道路建設事業の実施計画に伴い、予定地内に所在が予想される遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の取り扱いをめぐって、平成13年に県土木部道路建設課（現・県県土整備部道路課）と県教育庁文化財保護課の間で協議が行われた。その結果、予定地内の遺跡は未確認であるが、付近に縄文時代等の遺跡があることから、この地域の確認調査が必要となり、平成13年9月に文化財保護課が試掘調査を行なった。その結果、予定地内から縄文時代前期の遺物が発見されたため、糠塚大開（2）遺跡として新規登録され、事業実施前に発掘調査を行なうこととなった。

これをうけて、平成13年10月3日に文化財保護課・八戸土木事務所（現・八戸県土整備事務所）・当センターの職員が、調査予定地の踏査及び調査打合せを行なった。

当センターでは、翌平成14年3月6日に八戸土木事務所職員とともに、現地において最終的な打合せを行ない、8～10月の予定で発掘調査を行なうことになった。しかし、同事業に関わる隣接の長久保（2）遺跡の調査が、予定より早く進んだため、この遺跡の調査を7月1日から開始したところ、7月8日になって、同道路課の事業にかかる八戸市林ノ前遺跡調査の支援体制を急ぎよ取らざるを得ない事態が生じたため、この調査を7月で終了し、大部分の調査を翌平成15年度に持ち越すことになった。

（福田 友之）

第2節 調査要項

1 調査目的

八戸環状道路建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する糠塚大開（2）遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して地域社会の文化財の活用に資する。

2 発掘調査期間 平成14年7月1日～同年7月31日

平成15年6月3日～同年8月26日

3 遺跡名及び所在地 糠塚大開（2）遺跡（青森県遺跡番号03278）

八戸市大字糠塚字大開22、外

4 調査面積 860平方メートル（平成14年度）

3,800平方メートル（平成15年度）

5 調査委託者 青森県県土整備部道路課

6 調査受託者 青森県教育委員会

7 調査担当機関 青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査体制 青森県埋蔵文化財調査センター

調査指導員 藤沼 邦彦 弘前大学人文学部教授（考古学）（平成14年度）

市川 金丸 青森県考古学会会長（考古学）（平成15年度）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

所長 佐藤 良治

次長 福田 友之

総務課長	工藤 和夫（現総務G.L.）
調査第二課長	成田 滋彦（現総括主幹）
文化財保護主事	小山 浩平（平成14年度）
文化財保護主事	神 昌樹（平成14年度）
文化財保護主査	中村 哲也（平成15年度）
文化財保護主事	岩田 安之（平成15年度）
調査補助員	小泉 英之・市川 佳子
	森 賀香・盛 愛子（平成15年度）

第3節 平成14、15年度調査の概要

調査はグリッド法を基本とした。グリッドの原点・規模・呼称等は平成14年度調査時のものを踏襲した。日本測地系における公共座標値（X = 53,980m Y = 55,460m）を起点として1辺20mの大グリッドに基づく4×4mの小グリッドを設定した。小グリッドは北から南に向かってアルファベット（A・B・C・…）、東から西に向かって算用数字（0・1・2・…）を付し、A-1区、B-5区などと組み合わせて使用し、そのグリッドから南東の4m区画をグリッド名とした（図3）。

標高値は平成14年度にすでに設定されていたものを使用し、各遺構精査及び地形図作成の必要に応じて移動した。

表土の除去は一部、重機で行ったが基本的には人力で行った。表土から下層の掘削は人力で行った。 排土の移動は重機で行った。

遺構は種別ごと、確認順に名称を付した。遺構ごとの略号については凡例を参照されたい。なお調査後に遺構ではないと認定されたものについては整理作業の段階で欠番とした。遺構の精査は、各遺構の規模・形状に合わせて、四分法と二分法を適宜採用した。

遺構実出土遺物は、搅乱出土、大きさが1cmに満たないような小片を除き、光波トランシットを用いてX、Y、Zの3次元データと層位を記録して取り上げた。小片遺物は層位を記録し、グリッド単位で取り上げた。遺構内出土遺物は堆積土を分層し、その与えられた層位にしたがい、3次元データと層位を記録して取り上げた。層序は、遺構内堆積土は算用数字、調査区全体の堆積層はローマ数字で表記した。

遺構実測図は基本的には縮尺1/20で記録したが、埋設土器など規模の小さいものに関しては縮尺1/10で記録した。

写真撮影は35mmカメラで、カラーリバーサルフィルム・モノクロフィルムを用いて撮影し、デジタルカメラを併用した。また、メモ写真用としてポラロイドカメラを使用した。これは主に遺構精査時のメモ用として使用した。
（岩田）

調査経過

平成14年度の調査は、調査区のグリッド設定、一部の粗掘で調査を終了した。斜面部を中心に発掘調査を行った。遺跡全体にわたって木材等の切り出しに伴う盛土が厚く堆積していたが、その一部は遺物包含層を切り崩したものであったようで、多くの土器・石器等を含んでいた。なお、平成14

年度の調査では遺構等の確認はされなかった（図3）。

平成15年度の調査は、6月3日に前調査遺跡である八戸市大間遺跡から機材を移動し、調査を開始した。排土置き場を確保するため、第IV層上面まで掘削されていた前年度（平成14年度）調査箇所である斜面部の精査から開始した。その結果、斜面部に遺構は確認されなかっただけで、地形測量、基本層序の記録を行った後、斜面部を排土置き場にすることとした。7月末までにはすべての遺構の確認が終了した。8月1日から八戸市新田遺跡と本遺跡と2現場を同時に進行させるため、作業体制を2つに分けて、調査を継続した。8月は確認された遺構を精査した。8月26日までには遺構の精査をすべて終了した。最後に遺跡の完掘写真を高所作業車から撮影し、調査を終了した。

（小山・岩田）

整理方法

水洗・注記の終了したすべての遺物の重量・層位をコンピューターに登録した。遺物の登録番号は、現場での取り上げ番号を用いた。現場で同一個体として複数破片取り上げた場合でも、整理によって同一個体ではないと判断された遺物に関してはP1-1というように枝番を付して登録した。枝番を付す作業に先だって、複数破片を取り上げた同一番号内で接合可能なものは接合した。同一番号内で接合しないと、いたずらに枝番を増やすことになってしまうためである。土器であるのに石器として取り上げてしまったものやその逆は、間違えて取り上げた番号を欠番とし、石器であった場合には石器の一番最後の登録番号を新たに付した。

以上の登録台帳作成後、異なる登録番号間による遺物の接合を行った。異なる登録番号が接合した場合、また接合しなくとも同一個体であると判断された遺物には登録番号とは別に個体番号を付した。

接合終了後に報告書掲載遺物の選別を行った後、実測、写真撮影、拓本、トレース、デジタルトレースを行い、Adobe社製 InDesignCS によってすべてのレイアウトを行った。

（岩田）

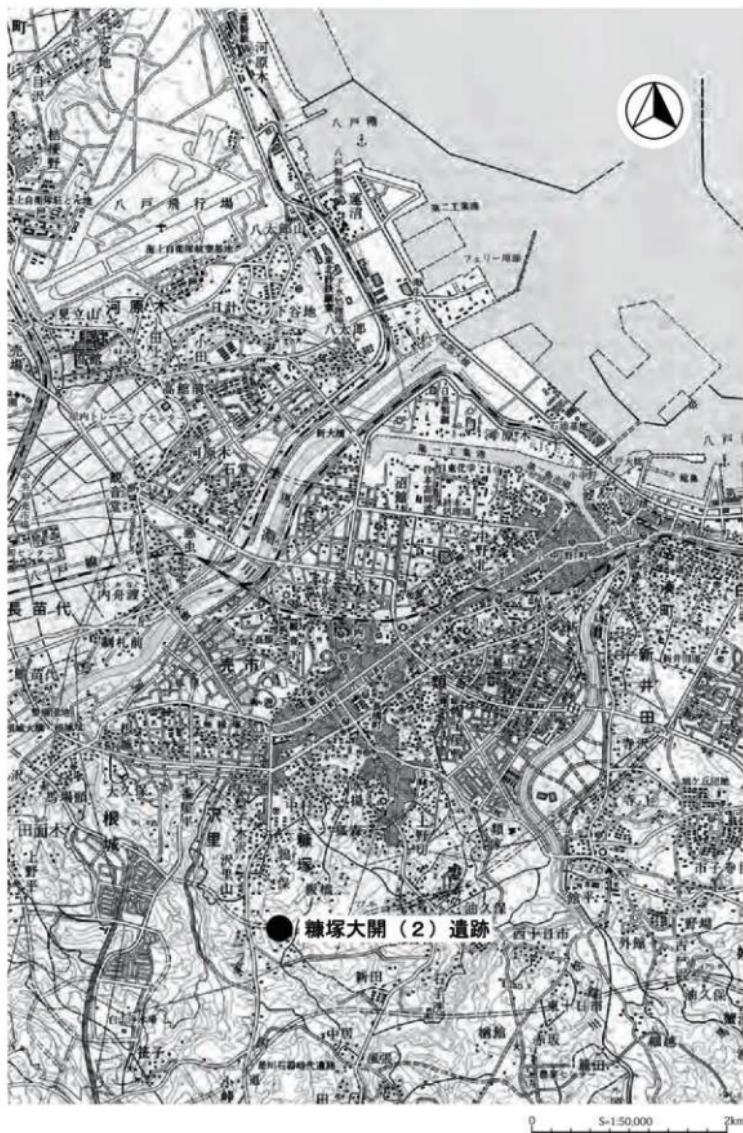
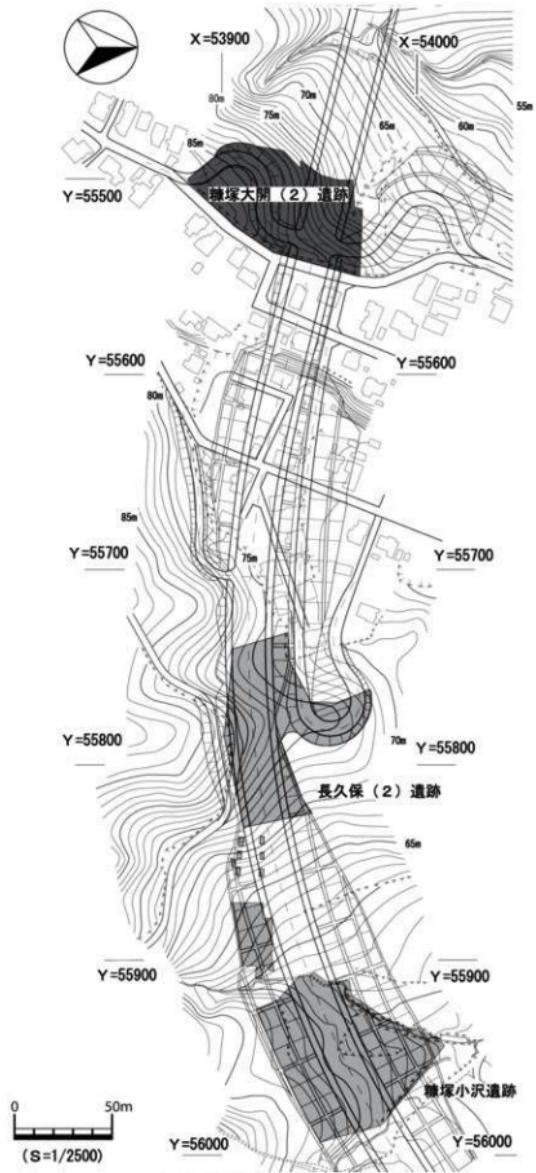


図1 遺跡位置図



緑塚大廻（2）遺跡

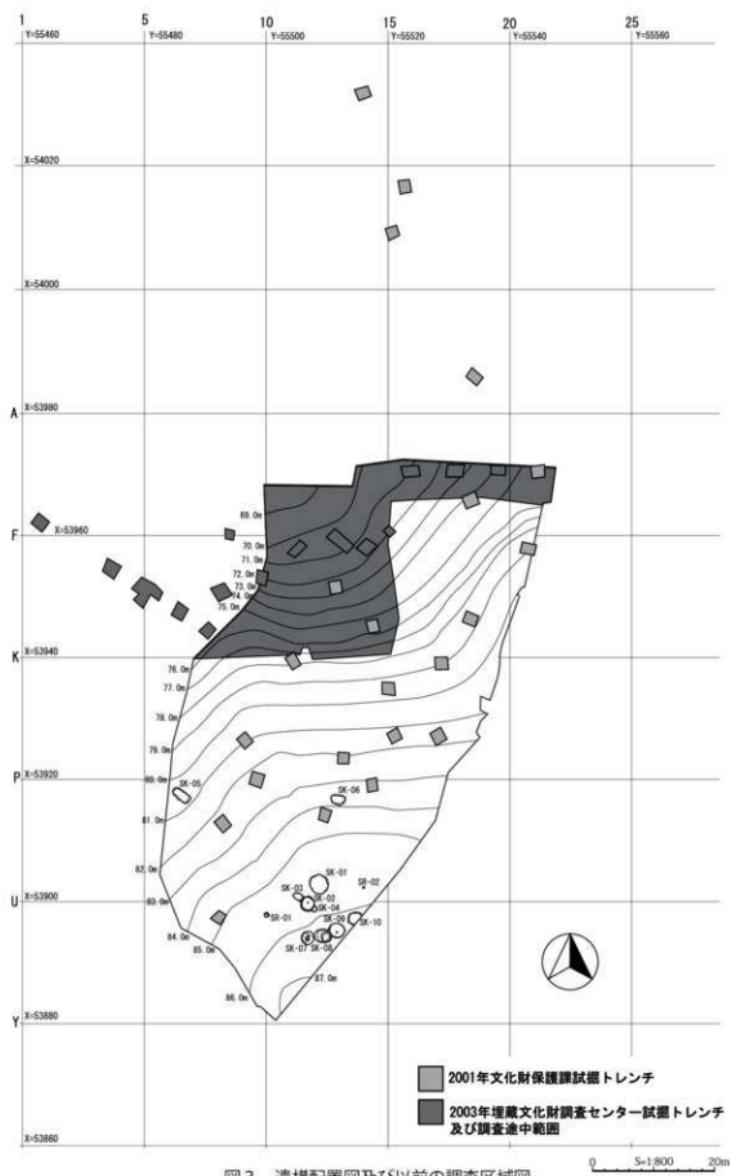


図3 遺構配置図及び以前の調査区域図

第2章 糸塚大開（2）遺跡の位置と地形・地質

本遺跡は平成14年度に調査された『長久保（2）遺跡』から西へ約250mと近接した位置にある。本遺跡を含めて、この周辺の地理的・歴史的環境は『長久保（2）遺跡』（青森県教育委員会2004）に詳述されている。よって詳細は『長久保（2）遺跡』を参照していただくこととし、ここでは簡単に糸塚大開（2）遺跡の地理的環境に触れることとしたい。

「糸塚大開（2）遺跡は、南北に細く折がる天狗岱段丘高位面の突端、標高69～87m付近に位置する」（青森県教育委員会2004:8）。天狗岱段丘は八戸平原地区では2段に分かれ、上位の段丘が白銀平段丘、下位が野場段丘と呼ばれている。本遺跡は新井田川西方に位置しており、2段に分けられた天狗岱段丘の上位段丘である白銀平段丘に位置する（図4）。

本遺跡の調査地点は、北西から南東に上る斜面にあり、南東に行くほど斜面は緩やかになる。遺構は、調査地点南東部の緩やかな斜面上に集中しており、この遺構分布は本遺跡の主体が南東方向の平坦面に拡がることを示唆している。北西斜面下には小川が流れている。

本遺跡の遺構集中部に立つと、北部に八戸市街、さらに遠方には八太郎大橋と海を眺望できる。

（岩田）

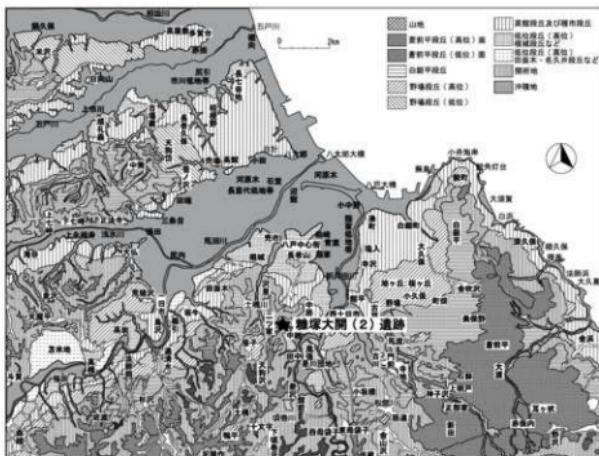


図4 八戸付近の地形区分図（松山1982第2図を改変・トレース）

引用・参考文献

- 佐々木辰雄 2004「第1節 長久保（2）遺跡の位置と地形・地質」『長久保（2）遺跡』青森県教育委員会 青森県埋蔵文化財調査報告第367集 5-6頁
 松山力 1983『八戸の地質』八戸市教育委員会
 青森県教育委員会 2004『長久保（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第367集

第3章 遺跡の層序

調査対象区域は、標高87mの尾根部から斜面下の69mまで比高差18mの斜面に位置している。このように比高差があるため、遺跡の層序は尾根部付近2カ所、斜面中部、斜面下部の4カ所で確認した。第V層以下は主に尾根部で確認した。本遺跡の主な遺物包含層は第III層である。

第I層 10YR3/2 黒褐色シルト 草木痕を多く含みしまりはない。

第II層 10YR2/2 黒褐色シルト やや粘質。径1mm程度の硬質な軽石（十和田b降下軽石：To-b）を極少量（1%未満）含む。

第III層 10YR3/2～3/4 黒褐～暗褐色砂質シルト 中摺軽石起源と推測される径1mm以下の微細粒子を1～3%含む。径2～20mmの黄褐色軽石1%含む。

第IV層 粒径が細かく、粘性のあるシルト。斜面中部では、2層に分層可能である。

第IV A層 10YR2/1 黒色シルト 径2～20mmの黄褐色軽石2%含む。

第IV B層 10YR2/2 黒褐色シルト 径2～20mmの黄褐色軽石3%含む。

第V層 褐色の堅くしまった火山灰土で、八戸火山灰第V層以上に相当すると思われる。2層に分層される。

第V A層 10YR4/4 褐色シルト 径3mmの黄褐色軽石3%含む。

第V B層 10YR4/6 褐色シルト質火山灰土・軽石 径5～10mmの黄褐色軽石25%含む。八戸火山灰第V層以上に相当する。

第VI層 八戸火山灰層

第VI A層 10YR4/6 径1～10mmの褐色軽石層。八戸火山灰第IV層。

第VI B層 2.5YR6/4 鈍い黄色火山灰土。八戸火山灰第III層。

第VI C層 10YR5/4 鈍い黄褐色軽石層。八戸火山灰第II層。

第VI D層 10YR7/3 鈍い黄橙色火山灰土。中間に厚さ約5cmの軽石層含む。八戸火山灰第I層。

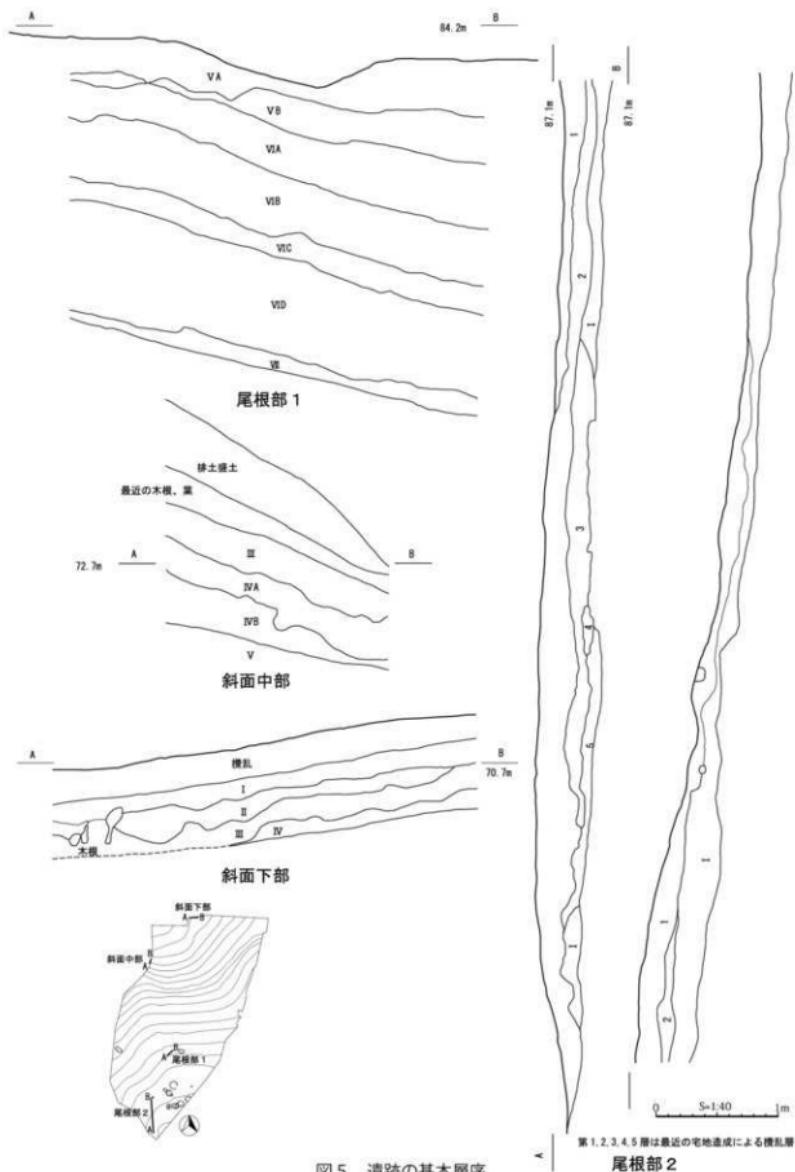
第VII層 7.5YR4/6 褐色粘土質火山灰土。最上部にチョコレート色の薄層がのる。高館火山灰層上部。

尾根部では本遺跡東部の宅地造成時の搅乱層が堆積していた。第I層は確認できたが、第II～IV層は欠損していた。斜面中部では第I、II層が欠損しており、平成14年発掘調査時の排土が上層で確認された。また斜面中部では第IV層が厚く、A、B層の2層に細分された。斜面下部では第I～IV層まで確認したが、斜面中部のように第IV層は細分されなかった。

遺構集中部の北西斜面（T-9,10,11,U-10,11 グリッド付近）には他より遺物を多く含む層が確認された。第III層類似層が主体であるが第V層以下の土が斑に混じるため、遺構を掘り返した土や遺物廃棄の痕跡が混在する人為的層である可能性が高い。よって、この層を他の層と区別するため第III-1層と層名を付した。

遺構確認面は第V層上面である。

(岩田)



第4章 検出遺構とその出土遺物

第1節 検出遺構の概要

平成15年度の調査で確認された遺構は土坑10基、土器埋設遺構2基、人為堆積層1カ所である。土坑の大部分、土器埋設遺構、人為堆積層は縄文時代前期中葉以降に属すると推測される。また、SK-05は時期は不明であるが、その形状や炭の出土状況から炭窯と推測される。

10基の土坑のうち4基はいわゆるフラスコ状土坑である。

土器埋設遺構は2基確認されたが、1基は掘り方が明確に確認されなかったため、土器の径と同じ規模の掘り方であったことが考えられる。いずれも底部を下にした正立位状態で確認された。

人為堆積層は遺構の集中する尾根頂部からやや下がった北西斜面（T-9,10,11,U-10,11 グリッド附近）で確認された。20m程度の規模で厚さは20～40cmである。

今回の調査範囲では居住空間が確認されなかったが、遺構配置図からみてとれるように、本遺跡から南東に向かって尾根地形が延びている。現在は住宅街となっている箇所である。本調査で確認された遺構の配置はこの尾根地形上に沿って分布する傾向をみせているため、本遺跡南東部に居住域の存在が推定される。

第2節 検出遺構と出土遺物

上述のとおり、今回確認された遺構はフラスコ状土坑、炭窯跡、その他の土坑、土器埋設遺構、人為堆積層である。以下、それぞれの遺構ごとに説明を行っていく。

1) フラスコ状土坑（図6, 7, 8, 9）

第1号、第2号、第9号、第10号土坑（SK-01,02,09,10）である。いずれも、同様の堆積状況を示しており、すべて下記の理由により自然堆積と判断した。SK-01が最も深く、規模が大きい。SK-02,09,10はほぼ同規模である。

位置（グリッド）、確認、規模は表にまとめた。フラスコ状土坑は崩落が激しいため上場の規模は、

掘られた当初の正確なものを反映していないため、崩落による規模の変動を最も受けていない下場の規模を記す。

遺構名	グリッド	確認	径(cm)	径(cm)	深さ(cm)
SK-01	S-11,12,T11,12	V崩土面	304	300	194
SK-02	T-11,U-11	V崩土面	238	230	150
SK-09	U-12,V12,13	V崩土面	248	246	152
SK-10	U-13	V崩土面	234	116(2)	150

[堆積土] 基本的には、すべて遺構壁の崩落土と第III層類似土の黒～黒褐色～暗褐色シルトの堆積である。大きく分けて、下層は大規模な壁の崩落土層であり、上層は小規模な壁の崩落土と第III層類似土が流入した層である。崩落土とした根拠は、由来する壁の層より下に堆積土として存在すること、壁にみられる基本層序の堆積順序が、壁から剥がれ落ちた部分の順序そのままに堆積土として形成されている部分があること、混入土がほとんど確認されないことである。第III層類似土は崩落が起こっていない時の周辺からの流入土や有機物（落ち葉など）に由来する堆積土と推測される。上層の堆積は、崩落の起こりやすいフラスコ状土坑のくびれ部が埋まつた後であるため、小規模な崩落土と第III層類似土で構成される。この第III層類似土の黒～黒褐色シルトも、以下の理由から自然堆積とした。人為的に土器、ゴミなどを捨てた、埋めたなどの痕跡が確認されない。第III層類似土に混じり、第V層塊が壁際に多く存在するため、この第V層塊は崩落土と推定され、掘り返されたなどの人為的に攪拌された際に混じった土とは言い難い。これらの理由から、第III層類似土は、自然に周辺から流入した堆積土であると判断した。

上述のように、本遺跡のプラスコ状土坑は崩落が激しいため、遺構廃絶時の形状とはまったく異なる掘り上がりの形状になっている。崩落以前の形状を復元するならば、崩落土をその由来する壁に戻した状態が近い姿になるであろう。

[埋没時期と出土遺物] 遺物は黒～黒褐～暗褐色シルト層から出土するため、遺構が自然に埋没する過程で周辺から流れ込んだものである。(SK-01,02) 出土土器のほとんどが縄文時代前期中葉～後葉に属するため、前期中葉～後葉以降に埋没したと推測される。SK-01 の第3層から磨石が出土している。(SK-09) 出土土器は縄文時代前期中葉～後葉と中期後葉に属するものが出土している。ほとんどが第1層から出土しているため、中期後葉以降には第1層までの土坑すべてが埋没したと推測される。第1層から無茎凹基石巖、有茎平基石巖がそれぞれ1点計2点、削器3点が出土している。(SK-10) 出土土器は縄文時代前期中葉～後葉、中期後葉、後期前葉に属するものが出土している。第2層から無茎凹基石巖が1点出土している。

2) その他の土坑

その他の土坑の規模は上場（長軸）×上場（短軸）×深さである。

第3号土坑 (SK-03) (図7)

[位置] T-11 グリッドに位置する。[確認] 第V層上面である。[新旧関係] 第2号土坑を切っており、第2号土坑より新しい。[堆積土] 1層の単層堆積で非常に浅い。[規模] 176 × 110 × 22cm である。[出土遺物] 縄文時代前期中葉～後葉に属する土器が出土した。

第4号土坑 (SK-04) (図7)

[位置] U-11 グリッドに位置する [確認] 第V層上面である。[新旧関係] 第2号土坑より古い。[堆積土] 層境が明瞭であるため人為堆積の可能性がある。[規模] (80) × 100 × 46cm である。[出土遺物] なし。

第6号土坑 (SK-06) (図9)

[位置] P-12,13 グリッドに位置する。[確認] 第V層上面である。遺物を残しながら遺構検出作業を行ったため、第1層が凸凹になっている。[規模] 242 × 160 × 44cm である。[出土遺物] 土器はほとんどが縄文時代前期中葉～後葉に属するものである。第1層から敲石、第2層から半円状扁平打製石器が出土している。

第7号土坑 (SK-07) (図8)

[位置] V-11 グリッドに位置する。[確認] 第V層上面である。[堆積土] 単層堆積である。[形状] 底面が凸凹になり、中央が深い。[規模] 200 × 212 × 38cm である。[出土遺物] 縄文時代前期中葉～後葉に属する土器が1片出土した。

第8号土坑 (SK-08) (図8)

[位置] JV-12 グリッドに位置する。[確認] 第V層上面である。[堆積土と形状] 5層に分層された。西部分に三日月状に1段テラスを形成し、東部が深くなる。[新旧関係] 第9号土坑より古い。[規模] 280 × 214 × 78cm である。[出土遺物] 縄文時代前期中葉～後葉、中期後葉に属する土器が出土した。

(岩田)

3) 炭窯跡と推測される土坑

第5号土坑 (SK-05) (図9)

[位置] P-6 グリッドに位置する。[確認] 第III～IV層中に確認した。[規模と形状等] 平面形は 315

×105cmの長方形である。長軸を斜面の最大傾斜線方向とし、底面は平坦で、4～7°の傾斜を持っている。深さは最深部で22cm、最浅部で11cmをはかるが、掘り込み面は第Ⅱ層中と思われる所以、より深かったと考えられる。底面は第Ⅳ層と第Ⅴ層の漸移帶である。底面・壁に焼けた痕跡は確認されなかった。【堆積上】十和田b浮石を少量含む黒色シルトの単層で、第Ⅱ層に類似する。【出土遺物】底面からは多量の炭が出土した。炭は壁よりも帶状に分布する傾向がある。炭は最大で長さ20cmである。細いものが多い。材の方向は、長軸に平行するものと直交するものがある。【時期】時期を特定できる遺物が出土しなかったため、詳細な時期判断はできないが、古代から中世にかけて一般的に見られる伏窯と考えられる。

（中村）

4) 土器埋設遺構

第1号土器埋設遺構（SR-01）（図10）

【位置】U-9,10グリッドに位置する。【確認】第V層上面である。【掘り方】明確な掘り方は確認されなかったため、掘り方の平面的な範囲は土器とほぼ同じ大きさであったことが推測される。【時期】縄文時代前期中葉～後葉の円筒下層b式に属する。

第2号土器埋設遺構（SR-02）（図10）

【位置】T-14に位置する。【確認と掘り方】第V層上面である。遺物の出土状況から第Ⅲ層が掘りこみ面と考えられるが、周辺の第Ⅲ層の遺物とともに、土器上部を遺構外土器として取り上げてしまったため、上部は欠損した形になっている。【時期】縄文時代前期中葉～後葉に属する。

5) 人為堆積層

【位置と規模】T-9,10,11,U-10,11グリッド付近で確認された。20m程度の規模で厚さは20～40cmである。遺構の集中する尾根頂部からやや下がった北西斜面で確認された。

基本層序第Ⅲ層類似土と第V層以下の火山灰土が混じり合った土で、遺物が多く出土した層を人為堆積層とし、第Ⅲ-1層と層名を付した。人為堆積とした根拠は、ブロック状に第V層以下の火山灰土が混じること、遺物の出土量が他の部分に比して多いことである。この層中、層下に遺構が確認されないこと、遺構集中部から近い斜面部であることなどから、おそらく遺構を掘った土や土器などを廃棄した際に形成された層であることが推測される。

（岩田）

引用・参考文献

青森県教育委員会 2004『長久保（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第367集

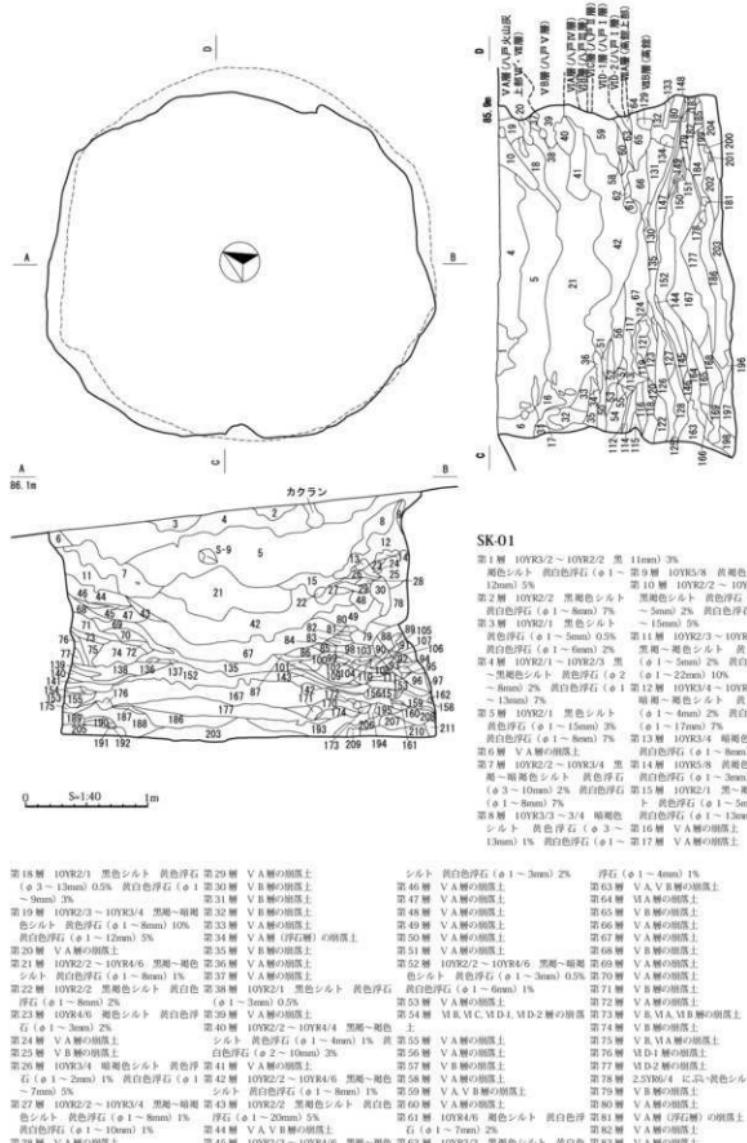
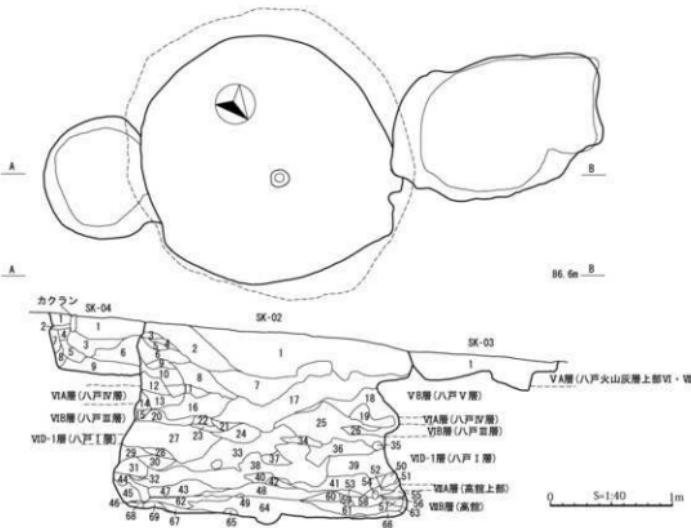


図6 第1号土坑

棘桿大圓（2）遺跡

第 84 紋	V A 條の樹脂土	第 159 紋	黒 B 條の樹脂土
第 85 紋	V A 條の樹脂土	第 160 紋	V D-2 條の樹脂土
第 86 紋	V A 條の樹脂土	第 161 紋	黒 B 條の樹脂土
第 87 紋	10YR2/2 ~ 10YR5/6 黒褐色~黃褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 2mm)/0.5%	第 162 紋	2.5YR5/6 にぶ~褐色シルト
黃白色浮石(ø 1 ~ 3mm) 2%		第 163 紋	黒 B 條の樹脂土
第 88 紋	V D-1, V D-2 條の樹脂土	第 164 紋	V R, V C, V D-1, V D-2 條の樹脂土
第 89 紋	V B, V A 條の樹脂土	第 165 紋	黒 B 條の樹脂土
第 90 紋	V B 條の樹脂土	第 166 紋	黒 II 條の樹脂土
第 91 紋	V B, V A 條の樹脂土	第 167 紋	V R, V D-1 條の樹脂土
第 92 紋	V D-1 條の樹脂土	第 168 紋	V D-2 條の樹脂土
第 93 紋	V D-1 條の樹脂土	第 169 紋	黒 B 條の樹脂土
第 94 紋	V D-1 條の樹脂土	第 170 紋	V E 條の樹脂土
第 95 紋	2.5YR5/6 黑褐色シルト	第 171 紋	10YR2/2 ~ 10YR5/6 黑褐色~黃褐色シルト
第 96 紋	V D-2 條の樹脂土	第 172 紋	2.5YR5/4 にぶ~褐色シルト
第 97 紋	10YR4/4 褐色シルト	第 173 紋	2.5YR6/4 にぶ~褐色シルト
第 98 紋	V B 條の樹脂土	記述無	
第 99 紋	V I 條の樹脂土	第 175 紋	V A 條の樹脂土
第 100 紋	V B 條の樹脂土	第 176 紋	V B, V A 條の樹脂土
第 101 紋	10YR1/1 ~ 10YR4/6 黑~褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 4mm) 1%	第 177 紋	10YR2/2 黑褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 6mm) 1% 黃白色浮石(ø 1 ~ 15mm) 2%
黃白色浮石(ø 1 ~ 3mm) 5%		第 178 紋	黒 B 條の樹脂土
第 102 紋	10YK3/2 黄褐色シルト	第 179 紋	V D-2 條の樹脂土
第 103 紋	10YK2/2 黑褐色シルト	第 180 紋	V B 條の樹脂土
~ 4mm 5%		第 181 紋	V B 條の樹脂土
第 104 紋	10YR4/6 褐色シルト	第 182 紋	V B 條の樹脂土
第 105 紋	10YR4/6 黄褐色シルト	第 183 紋	V B, V D-1 條の樹脂土
第 106 紋	V A, V B 條の樹脂土	第 184 紋	V B, V A 條の樹脂土
第 107 紋	V B 條の樹脂土	第 185 紋	V A 條の樹脂土
第 108 紋	V B 條の樹脂土	第 186 紋	V A 條の樹脂土
第 109 紋	V B 條の樹脂土	第 187 紋	V R, V D-1 條の樹脂土
第 110 紋	V B, V A 條の樹脂土	第 188 紋	V D-1, V D-2 條の樹脂土
第 111 紋	V D-2 條の樹脂土	第 189 紋	黒 B 條の樹脂土
第 112 紋	V A 條の樹脂土	第 190 紋	V B, V D-1 條の樹脂土
第 113 紋	V B 條の樹脂土	第 191 紋	10YR4/4 褐色シルト
第 114 紋	V A, V B 條の樹脂土	第 192 紋	2.5YR4/4 黄褐色シルト
第 115 紋	V B 條の樹脂土	第 193 紋	V D-1, V D-2 條の樹脂土
第 116 紋	V B 條の樹脂土	第 194 紋	V A, V B 條の樹脂土
第 117 紋	V A, V B 條の樹脂土	第 195 紋	黒 B 條の樹脂土
第 118 紋	V B 條の樹脂土	第 196 紋	V D-2 條の樹脂土
第 119 紋	V B 條の樹脂土	第 197 紋	黒 B 條の樹脂土
第 120 紋	V A 條の樹脂土	第 198 紋	V D-2 條の樹脂土
第 121 紋	V A 條の樹脂土	第 199 紋	V D-2 條の樹脂土
第 122 紋	V D-1 條の樹脂土	第 200 紋	V A 條の樹脂土
第 123 紋	V B 條の樹脂土	第 201 紋	V A 條の樹脂土
第 124 紋	10YR2/1 ~ 10YR5/6 黑~黃褐色シルト	第 202 紋	V D-1 條の樹脂土
第 125 紋	2.5YR7/3 黄褐色シルト	第 203 紋	10YR2/2 黑褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 6mm) 0.5% 黃白色浮石(ø 1 ~ 8mm) 1%
第 126 紋	V B 條の樹脂土	第 204 紋	黒 B 條の樹脂土
第 127 紋	V A, V B 條の樹脂土	第 205 紋	10YK4/4 黄褐色シルト
第 128 紋	V D-2 條の樹脂土	第 206 紋	V B 條の樹脂土
第 129 紋	V A 條的樹脂土	第 207 紋	V B 條的樹脂土
第 130 紋	10YR4/6 黄褐色シルト	第 208 紋	V B 條的樹脂土
黃白色浮石(ø 1 ~ 5mm) 1%		第 209 紋	V A 條的樹脂土
第 131 紋	V A, V B 條的樹脂土	第 210 紋	V B 條的樹脂土
第 132 紋	V D-1 條的樹脂土	第 211 紋	V B 條的樹脂土
第 133 紋	V A 條的樹脂土		
第 134 紋	V A 條的樹脂土		
第 135 紋	10YR2/1 ~ 10YR2/3 黑~黃褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 4mm)		
1%			
第 136 紋	V A 條的樹脂土		
第 137 紋	10YR2/1 ~ 10YR2/3 黑~黃褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 4mm)		
1%			
第 138 紋	V A, V B, V A 條的樹脂土		
第 139 紋	2.5YR5/6 黑褐色~黃褐色シルト		
第 140 紋	V D-1 條的樹脂土		
第 141 紋	V A 條的樹脂土		
第 142 紋	10YR5/6 黄褐色シルト		
第 143 紋	10YR2/2 ~ 10YR5/6 黑褐色~黃褐色シルト		
第 144 紋	10YR2/2 ~ 10YR5/6 黑~黃褐色シルト		
第 145 紋	V B 條的樹脂土		
第 146 紋	10YR7/3 明黄褐色シルト		
第 147 紋	V A, V B 條的樹脂土		
第 148 紋	V A 條的樹脂土		
第 149 紋	V A 條的樹脂土		
第 150 紋	V D-2 條的樹脂土		
第 151 紋	10YR3/4 ~ 10YR4/4 黄褐色シルト		
第 152 紋	10YR2/2 ~ 10YR2/3 黑~黃褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 7mm) 0.5%		
黃白色浮石(ø 1 ~ 3mm) 0.5%			
第 153 紋	2.5YR6/3 にぶ~褐色シルト		
第 154 紋	10YR2/1 ~ 10YR2/2 黑~黃褐色シルト 黃色浮石(ø 1 ~ 7mm) 0.5%		
黃白色浮石(ø 1 ~ 3mm) 0.5%			
第 155 紋	2.5YR6/3 にぶ~褐色シルト		
第 156 紋	V D-2, V A 條的樹脂土		
第 157 紋	V B 條的樹脂土		
第 158 紋	V A 條的樹脂土		



SK-02

第1回	10YR2/2 - 10YR3/4		第11回	10YR4/3 黑褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 5%		第26回	V 布の網底層
黒褐色-暗褐色 土 (φ 1 - 5mm)	2% 黑褐色 沙 (φ 1 - 5mm) から暗褐色シルトが混在し り合う		第12回	V 布の網底層		第27回	V 布の網底層
第2回	10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 3 - 10mm) 3%		第13回	V 布の網底層		第28回	V 布の網底層
第3回	記述なし		第14回	V 布の網底層		第29回	V 布の網底層
第4回	10YR3/4 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 3%		第15回	V 布の網底層		第30回	V 布の網底層
第5回	10YR2/2 黑褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 2%		第16回	V 布の網底層		第31回	V 布の網底層
第6回	10YR3/4 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 5%		第17回	10YR2/2 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 1% + 1% 黑褐色シルト + 黑褐色シルトが混在し り合う		第32回	V D1 の網底層
第7回	10YR1/1.7 黑褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 1%		第18回	V 布の網底層		第33回	10YR4/2 - 10YR2/2 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 1% + 1% 黑褐色シルト + 黑褐色シルトが混在し り合う
第8回	10YR1/0.4 - 10YR2/2 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 5mm) 5%		第19回	V 布の網底層		第34回	V A 布の網底層
第9回	10YR4/4 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 5%		第20回	V A B の網底層		第35回	V B 布の網底層
第10回	10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 3%		第21回	10YR4/3 - 10YR2/2 暗褐色-黑褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 2mm) 1% + 1% 黑褐色シルト + 黑褐色シルトが混在し り合う		第36回	V A B の網底層
第11回	10YR4/4 - 10YR2/2 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 5mm) 5%		第22回	V A B の網底層		第37回	10YR4/2 に 多い 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 5%
第12回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第23回	V A B の網底層		第38回	V B 布の網底層
第13回	10YR4/4 - 10YR2/2 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第24回	V A B の網底層		第39回	V B 布の網底層
第14回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第25回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第40回	V A B の網底層
第15回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第26回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第41回	V A B の網底層
第16回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第27回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第42回	V A B の網底層
第17回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第28回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第43回	V D1 の網底層
第18回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第29回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第44回	V D1 の網底層
第19回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第30回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第45回	V D1 の網底層
第20回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第31回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第46回	V A B の網底層
第21回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第32回	10YR5/5 - 10YR3/3 暗褐色シルト 黄色浮石 (φ 2 - 5mm) 2% 黑褐色は V 布 底層		第47回	10YR1/1.7 黑褐色シルト 黄色浮石 (φ 1 - 3mm) 2%

SK-03

第48番	10701/71 黒シリコン 黄色浮石 (φ 1 ~ 5mm) 2%	第1層 10YRA/4 暗色シルト 浮石 (φ 1 ~ 2mm) 2% 周 0.5%
第49番	M1 B層の底層上	
第50番	M1 B層の底層上	
第51番	M1 D1 層の崩壊土	
第52番	M1 A層の崩壊土	
第53番	M1 B層の底層上	
第54番	M1 D1 層の崩壊土	
第55番	M1 A層の崩壊土	
第56番	M1 A層の崩壊土	
第57番	M1 A層の崩壊土	
第58番	M1 D1 層の崩壊土	
第59番	M1 D1 層の崩壊土	
第60番	M1 B層の底層上	
第61番	M1 D1 層の崩壊土	
第62番	M1 B層の底層上	
第63番	M1 D1 層の崩壊土	
第64番	10702/72 黒褐色シルト 白・黄色浮石 (φ 2 ~ 5mm) 2%	
第65番	V1 D1 層の底層上	
第66番	V1 D1 層の底層上	
第67番	V1 D1 層の底層上	
第68番	V1 D1 層の底層上	
第69番	V1 D1 層の底層上	
SK-04		
第1層 (第1層)	10YRA/3 に M1-B 暗色シルト 白・黄色浮石 (φ 1 ~ 2mm) 3%	
第2層 (第2層)	10YRA/4 黄色シルト 白・黄色浮石 (φ 1 ~ 2mm) 5%	
第3層 (第3層)	10YRA/3 暗色シルト 黄色浮石 (φ 2 ~ 5mm) 3%	
第4層 (第4層)	10YRA/3 黄色シルト 黄色浮石 (φ 1 ~ 2mm) 3%	
第5層 (第5層)	10YRA/3 ~ 10YRA/4 暗色シルト 黄色浮石 (φ 2 ~ 5mm) 3%	
第6層 (第9層)	10YRA/3 暗色シルト 黄色浮石 (φ 2 ~ 5mm) 5%	
第7層 (第8層)	10YRA/4 暗色シルト 黄色浮石 (φ 1 ~ 2mm) 5%	
第8層 (第10層)	V A 層の崩壊土	
第9層 (第6層)	10YRA/3 ~ 10YRA/4 暗色シルト 黄色浮石 (φ 1 ~ 2mm) 3%	

図7 第2, 3, 4号土坑

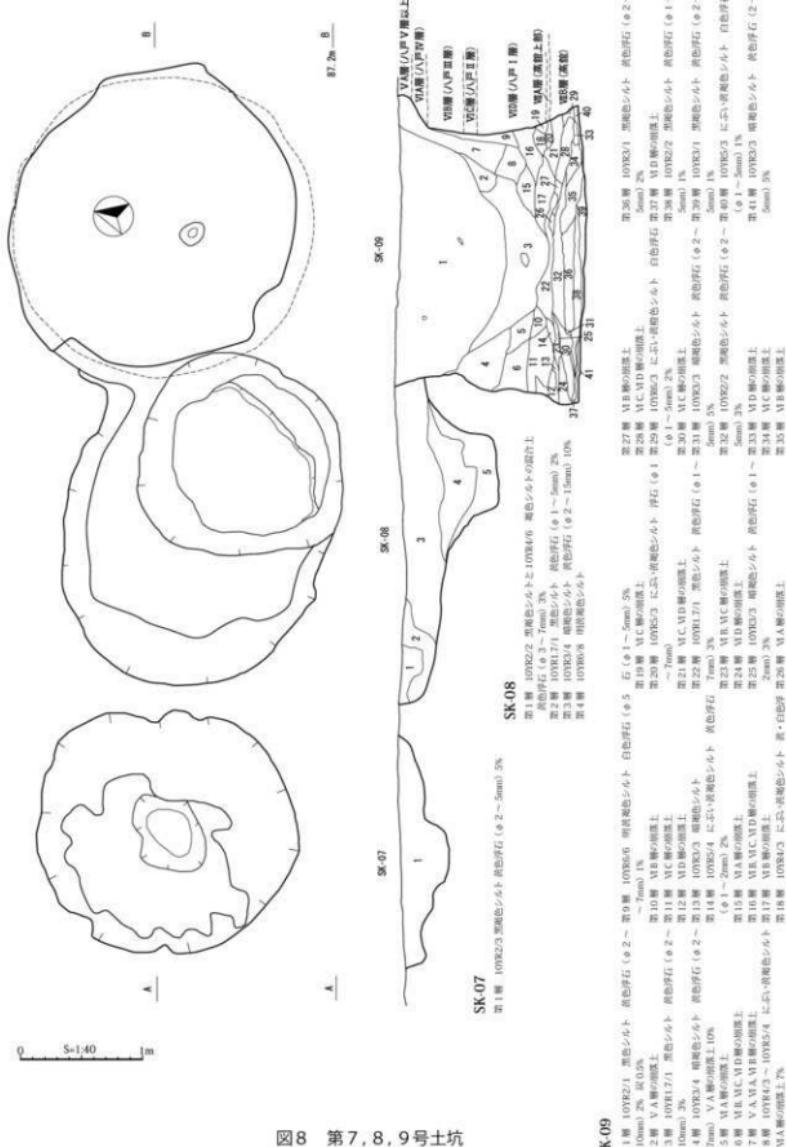


図8 第7, 8, 9号土坑

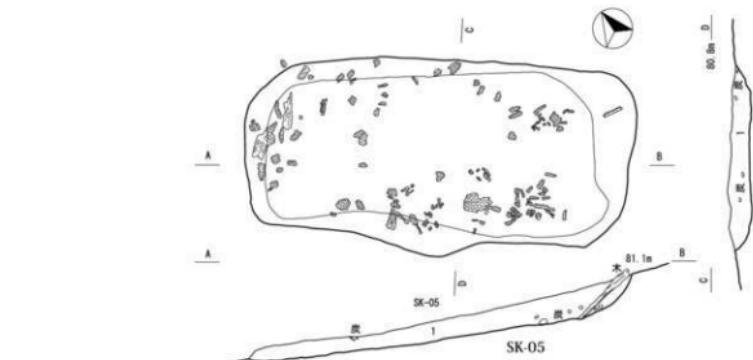
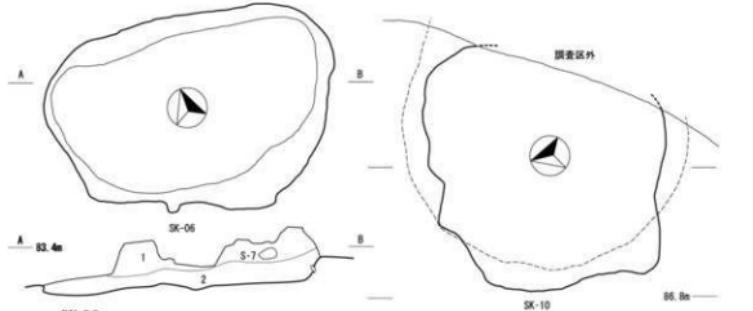


図1 槽 10YR2/1 黒色シルト 塵化物多量 十和田市新石器時代



SK-06

第1層 10YR2/2 黒色シルト 黃色浮石

(ϕ 5mm) 2%第2層 10YR2/2 黒色シルト 黃色浮石 (ϕ 2~

3mm) 3% V.A層と同じ上 1%

SK-10

層	層名	層厚 (m)	層位	特徴
第1層 10YR4/4	V.A-1層 (八戸Ⅰ層)	0.0~0.5	八戸Ⅰ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第2層 10YR4/4	V.A-2層 (八戸Ⅰ層)	0.5~1.0	八戸Ⅰ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第3層 10YR2/3	V.B-1層 (八戸Ⅱ層)	0.0~0.5	八戸Ⅱ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第4層 10YR2/3	V.B-2層 (八戸Ⅱ層)	0.5~1.0	八戸Ⅱ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第5層 10YR2/4	V.C層 (高部上)	0.0~0.5	八戸Ⅲ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第6層 10YR2/4	V.C層 (高部下)	0.0~0.5	八戸Ⅲ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第7層 10YR2/2	V.D-1層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第8層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第9層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第10層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第11層 10YR2/3	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第12層 10YR2/3	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第13層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第14層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第15層 V.B-2層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第16層 V.B-2層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第17層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第18層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第19層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第20層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第21層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第22層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第23層 10YR4/4	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第24層 V.A (浮石)	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第25層 10YR5/4	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第26層 V.B-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第27層 10YR2/2	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第28層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第29層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第30層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第31層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第32層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第33層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第34層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第35層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第36層 10YR4/4	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第37層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第38層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第39層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第40層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第41層 V.D-1層の崩落	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第42層 10YR4/4	V.D-2層 (八戸Ⅳ層)	0.0~0.5	八戸Ⅳ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第43層 V.I-B-1, V.I-B-2層	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第44層 V.I-B-2層	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第45層 V.I-C層の崩落	V.I-C層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第46層 V.I-D-1層の崩落	V.I-D-1層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第47層 V.I-B-2, V.I-C, V.I-D-1層の崩落	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第48層 V.I-B-2層の崩落	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第49層 10YR4/3	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第50層 V.I-D-2, V.I-B-2層	V.I-B-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%
第51層 V.I-D-2層の崩落	V.I-D-2層 (八戸Ⅴ層)	0.0~0.5	八戸Ⅴ層	黒色シルト (ϕ 2~5mm) 2%

図9 第5, 6, 10号土坑

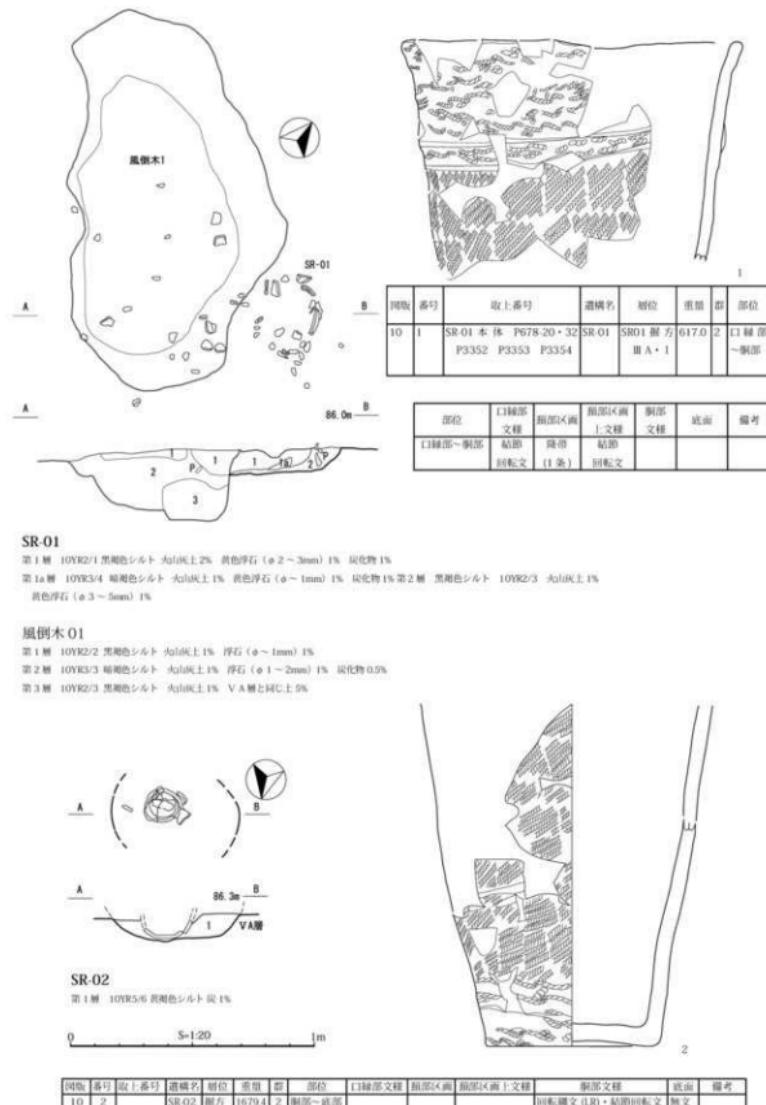


図10 第1, 2号土器埋設遺構

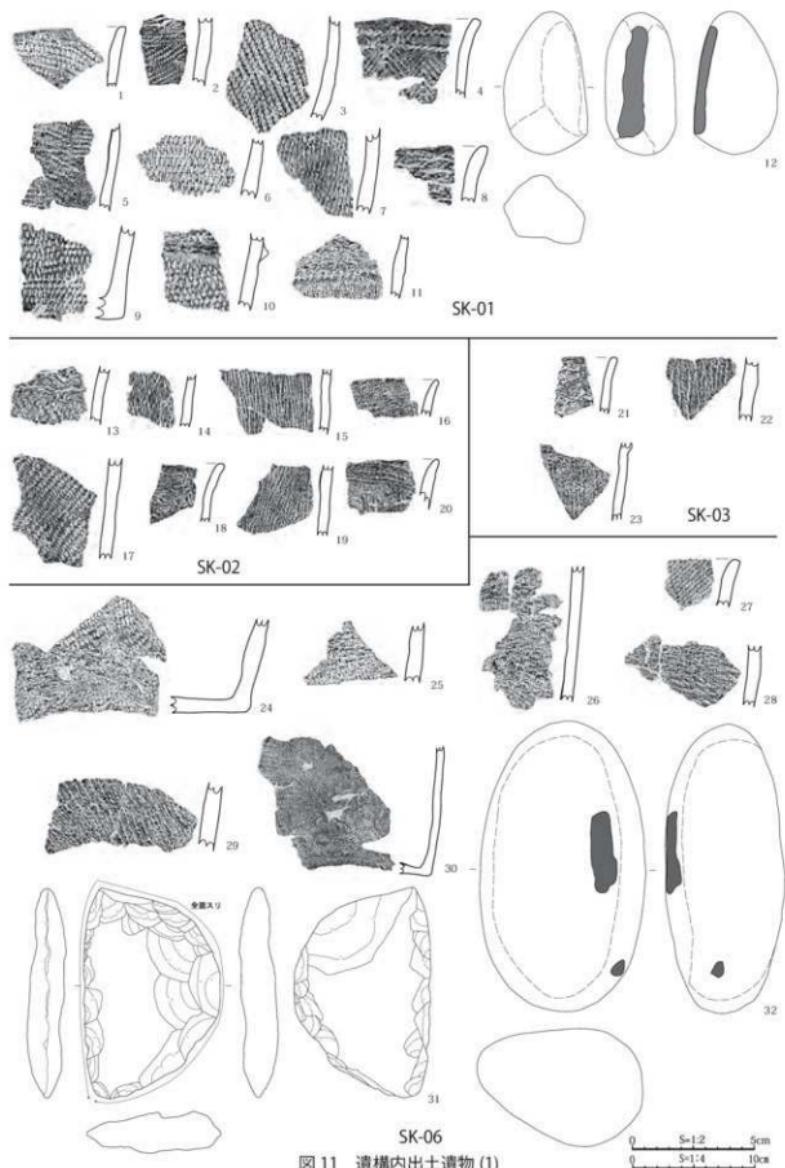


図 11 遺構内出土遺物 (1)

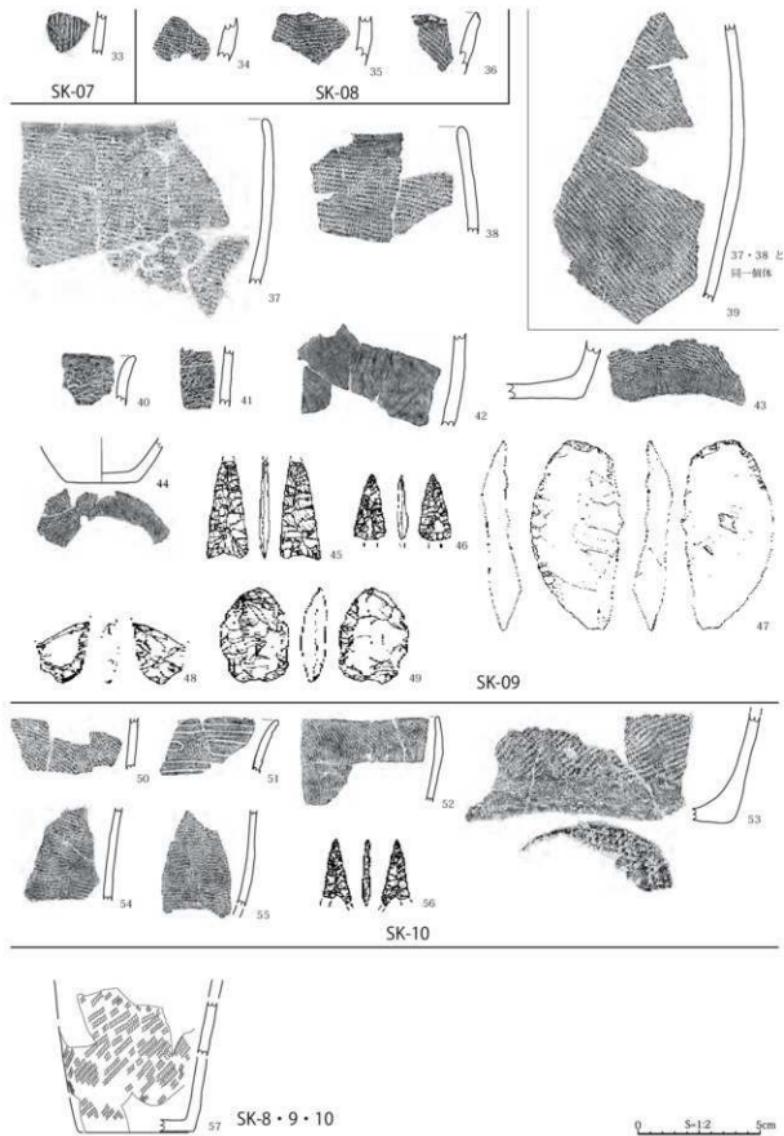


図12 遺構内出土遺物(2)

第5章 遺構外出土遺物

遺構外の出土遺物は、尾根頂部付近から北西方向にのびる2筋の微弱な谷地形に沿って集中する。その中でも、人為堆積層である第III-1層と遺構集中部北東の谷地形に集中する傾向がある。(岩田)

第1節 土器

平成13年度試掘調査分は466片(7754.2g)、平成14年度調査出土分は865片(16047.2)g、平成15年度調査分は10,139片(208,999g)が出土した。破片数はすべて接合前の破片数である。縄文時代早期から後期、弥生時代の各時期の土器が出土したが、主体を占めるのは縄文時代前期後葉の土器で、90%以上を占める。

1 分類

第1群土器 縄文時代早期の土器

第1類 沈線と刺突により文様が施されるもの(図13-1~4)

4片出土した。口縁部には平行な沈線を2条巡らし、下位の沈線に接して平行沈線と刺突を、縦位あるいは鋸歯状に施す。溝底に微細な条線が生じており、工具は先端が平坦だが平滑ではないと考えられる。文様の類例が無く、型式比定は困難である。調整は内外面ともナデ調整で、貝殻文前半期のものとは異なり、早期末葉の脆い胎土とも異なる。また施文工具の形状も貝殻文前半期には認められない。胎土は、本遺跡で出土した土器の中では後述する第1群第2類土器に類似し、これに近い時期の可能性が考えられる。

第2類 吹切沢式前後と考えられるもの(図13-5)

尖底となる底部が1点出土した。

第3類 ムシリI式と考えられるもの(図13-6~10)

微隆起線により幾何学的な文様を描くものである。内面には浅い条痕が残る。7は内外面とも浅い条痕が施される。

第2群土器 縄文時代前期中葉～後葉の土器(図13-11~図20-157)

90パーセント以上が本類である。胎土には纖維を含んでいる。ここでは、部位毎の属性分類を行った後、復元個体を中心に属性の組み合わせを抽出し、個体の分類とする。その他については、部位毎に述べる。分類対象とする属性および確認した属性の組み合わせは以下の通りである。

属性の分類			属性の組み合わせ	
文様帶	口縁部	脇部	I b1(11-46~53)	
A 有	I 結節回転文	1 単輪絞条体1類	I b3(54-56)	
B 無	II 単輪絞条体1類・1A類	2 単輪絞条体1A類	II b1(20-55)	
	III 単輪絞条体6類	3 単輪絞条体5類	Vlb1(66)	
	IV 回転圓文	4 単輪絞条体6類	Vlb5(67-68)	
	V 羽状圓文	5 回転圓文	Vlb1(71)	
頸部区画	VI 燃糸側面圧痕1	6 羽状圓文(横位)	I a1(13-14・16-38・52)	
a隆帯あり	VII 燃糸側面圧痕2	7 結節回転文	I a2(12-57)	
b隆帯なし	VIII 無文	8 多輪絞条体	I a5(SR-01・16)	
	IX 沈線文		II a1(17-18・19)	
	X 多輪絞条体		III a4(59)	
			Vla1(69)	
			Vla6(70)	

そのほかに頸部区画の有無は不明だが、IX - 5 の組み合わせ (75-77) を確認している。

頸部区画の有無と他の属性の組み合わせをみると、頸部区画のあるもの (a 類) は無いもの (b 類) に比べて口縁部文様・胴部文様とも多様である。

B 類 (25・27・34・84) は 単軸絡条体 1 類、単軸絡条体 5 類、多軸絡条体、回転繩文がある。

胴部

胴部破片は属性の分類に示した各種がみられる。

底部

底部は、完全に上げ底になるもの (146)、上げ底風のもの (121・151・155・113)、外周に向かって突出するもの (123・152・153) がある。底面の湾曲の度合いが平底と大差がないものもあるが、大多数は土器成形時に底部の円盤の外周に粘土を貼り付けて胴部を立ち上げる事により、粘土が外周に盛り上がり、これを調整することで上げ底風になるものと考えられる。

底面には回転繩文を施文するもの (122・123・154)、絡条体を回転施文するもの (29・155・156)、編み物の圧痕を残すもの (36・147・149・151・152・) がある。編み物圧痕は底面中央にあるものと、外周部にあるものがある。編み物の種類は、竹を削いたような幅 2 ~ 3mm の平たい硬質な素材を 5 ~ 6mm 間隔で、軟質な纖維を経糸にしてもじり編みしたもののがみられ網代圧痕のあるものは出土していない。

器形

器形は、底部から口縁部に向かって若干開き気味に立ち上がり、胴上半～頸部で直立・内湾し、口縁部で外傾する器形が主体である。いわゆるバケツ形を呈するものはほとんどない。

部位毎の文様出土数は下表に示した。すべて接合前の破片数で、複数の部位にまたがる破片は重複して計数されている。口縁部では結節回転文が最も多く、胴部では単軸絡条体が最も多い。頸部は隆帯を持つものが多い。このような状況から、I a1 (口縁部：結節回転文 頸部区画：隆帯 胴部：単軸絡条体 1 類) の組み合わせが最も多く、II a1 (口縁部：単軸絡条体 1 類 頸部区画：隆帯 胴部：単軸絡条体 1 類) などがこれに次ぐと考えられる。また、口縁部に撚糸側面圧痕を施すものも定量存在する。撚糸側面圧痕は口縁部に平行線を描出するもの (撚糸側面圧痕 1) と、横位と縦位・斜位の組み合わせ (撚糸側面圧痕 2) があるが、小破片の場合、これを区別することは難しいので、集計

	口縁部	胴部
結節回転文	657 51.5 %	873 10.6 %
回転繩文	192 15.1 %	2414 29.2 %
単軸絡条体 1 類	184 14.4 %	3918 47.4 %
単軸絡条体 5 類	4 0.3 %	62 0.8 %
単軸絡条体 6 類	9 0.7 %	43 0.5 %
多軸絡条体	9 0.7 %	117 1.4 %
無文	8 0.6 %	12 0.1 %
沈線	6 0.5 %	9 0.1 %
3軸絡条体 1 類	11 0.9 %	1 0.0 %
撚糸側面圧痕	133 10.5 %	1 0.0 %
羽状繩文	20 1.6 %	60 0.8 %
直前段反彎	1 0.1 %	3 0.0 %
前後段反彎	0 0.0 %	42 0.5 %
不明	39 3.1 %	706 8.5 %
合計 (重複あり)	1275	8266

頸部	
隆帯 (1 例)	76 58.5 %
隆帯 (2 例)	4 3.1 %
無	48 36.9 %
単絡 1 丘瓶	2 1.5 %
合計	130

第 2 群土器集計表 (I)

時にはすべて撚糸側面圧痕とした。また、胴部の結節回転文は他の文様内に帯状に施される場合があるが、これも小破片の場合識別が困難なので、結節回転文と他の文様に重複して計数してある。

第2群土器集計表(2)

口縁部文様・側面文様の組み合わせ (縦軸: 口縁部 橫軸: 脇部)

	結節回転文	羽状縞文	單軸絡条体1類	單軸絡条体2類	側面絡条体1類	側面絡条体2類	多軸絡条体	無文	沈線	側面絡条体1類(有)	側面縞文	直前縞文	直後縞文	前後段波	前後段波
単軸絡条文	10	21	23	2	1										
羽状縞文		9	4												
側面絡条体1類(有)			14												
側面絡条体2類															
側面絡条体1類					4										
側面縞文						4									
無文			1												5
沈線															
側面絡条体1類(有)				7											
側面縞文		5	6												1
直前縞文	1	1													3
直後縞文															
合計(重複あり)															

第3群土器 繩文時代前期末葉の土器 (図 20-158 ~ 161)

羽状縞文 (160)、羽状縞文を施文した後結節回転文を縦位回転させるもの (161)、条線文 (158・159) がある。量的にはごく少量である。

第4群土器 繩文時代中期後葉～中期末葉の土器 (図 20-162 ~ 174)

162・163 は同一個体の可能性が高い。RLR 繩文地に 2 条ないし 3 条 1 単位の沈線で縦位に展開する曲線文が施される。沈線間は磨消され無文になっている。無文部の結節点には粘土瘤が貼り付けられる。大木 8b 式に平行すると考えられる。164 は口縁部または肩部に平行沈線を施す。地文は単軸絡条体 1 類 (L) が縦位回転施文されている。165 は RLR 繩文地に 1 条の沈線により曲線文が施文される。166 は縦走縞文地に 2 条 1 単位の垂下する沈線が施される。最花式にみられる逆 U 字状文と考えられる。169・170 は縩文施文部の外周に凹線が施され、その外側は稜線状に盛り上がる。大木 10 式平行期のものと考えられる。

第5群土器 繩文時代後期前葉の土器 (図 20-175 ~ 21-183)

沈線により曲線文を描くもの (175 ~ 179)、単軸絡条体 5 類を施すもの (180 ~ 182)、条の間隔が大きく開いた単軸絡条体 1 類 (183) を施すものがある。175・178 は 3 条 1 単位の沈線が施される。文様付近には縩文が施され、この上に沈線を引いている。不要な縩文は磨り消されているが一部が残されている。

第6群土器 繩文時代後期中葉の土器 (図 21-185 ~ 187)

185 ~ 187 は同一個体の可能性が高い。口縁部は外反し、1.7cm の縩文帯を施す (185)。胴部には曲線文が施される (186)。胴部下半から最下端まで縩文帯が施される (187)。十腰内Ⅲ式に比定される。

第7群土器 繩文時代中期後葉から後期中葉のいずれかに属するもの (図 21-184・188)

184 は胎土から後期前半に属するものと思われる。188 は無文の口縁部片である。胎土から判断して、縩文時代中期後葉から後期中葉のいずれかに属すると思われるが、特徴に乏しいので、型式比

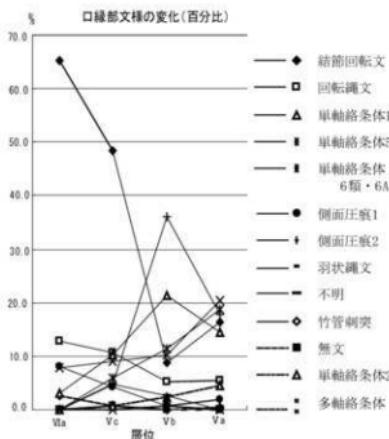
定は困難である。内外面とも赤色塗彩されている。

第8群土器 弥生時代の土器（図21-189）

1片のみ出土した。口唇部はつまみ上げることで先端が薄く成形され、断面の丸い棒状工具を斜め上から器面に浅く押しつけて刻みを施す。口縁部にはRL繩文上に3条の細く鋭い平行沈線が施され、上端と下端の沈線間に縱位の粘土粒を貼り付ける。平行沈線の下位には曲線的な沈線が施される。

2 第2群土器の編年的位置づけ

第2群土器は口縁部に結節回転文を施する土器が主体で、山内清夫の円筒下層a・b式に相当する。円筒下層式の編年は戦後江坂輝也・村越潔（江坂1970、村越1974）により型式内容が検討、その後、三宅徹也・鈴木克彦による検討が行われ（三宅1977・1981、鈴木1978）たが、それぞれ型式内容が異なり、混乱を来していた。これらの編年案に対する疑問が述べられた（三浦1984・1990）事もある。1990年代に入り、良好な資料が増加し、これら編年案との摺り合わせをはかりつつ、比較検討が行われるようになった（工藤1995、青森県教育委員会1997、小笠原2000・2002、茅野2004）。このような状況の中で、本遺跡の第II群土器の編年上の位置を定めるため、層位的に最も良好な三内丸山遺跡第6鉄塔地区第V a層～第VI b層出土資料と比較する。下表は報告書掲載図から算出した第6鉄塔地区的タイプ別の数量と比率である。隆帶の形状・有無に着目する。第VI b層では高い隆帶を持つものは少なく、第VI a層・第V c層・第V b層と上層にいくに従って増加する。第V b層では低い隆帶のものが多い。口縁部文様帶の文様に注目すると、第VI b層ではほぼすべてが結節回転文で、撫糸側面圧痕・単輪絡条体がわずかにある。第VI a層では単輪絡条体1類が出現、V c層では単輪絡条体6類と縦位の撫糸側面圧痕が出現する。V b層では撫糸側面圧痕により鋸歯文を描くもの、口縁部文様帶の上端や頸部区画帯付近に平行線を描くものが現れる。上層にいくに従って結節回転文の比率は減少する。器形の面では、口径と底径の差が大きく器高の比較的低いものは第V c層ですくなくなるようである。



	Vla	Vc	Vb	Va
結節回転文	322	81	29	33
回転繩文	63	18	17	11
単輪絡条体1類	15	17	71	29
単輪絡条体5類	39	15	34	41
単輪絡条体6類・6A類	0	10	38	38
側面圧痕1	40	7	2	4
側面圧痕2	0	8	120	36
羽状繩文	1	0	2	0
不明	0	0	9	0
竹管刺突	13	1	80	1
無文	0	1	0	0
単輪絡条体2類	0	1	8	9
多輪絡条体	0	0	2	0
合計	493	167	332	202

三内丸山遺跡第6鉄塔地区土器文様別集計表

このような三内丸山遺跡第6鉄塔地区出土土器の様相と対比すれば本遺跡の第2群土器は第Vc層～第Vb層に対比できる。燃糸側面圧痕による縦位・斜位の文様は三内丸山遺跡第6鉄塔地区では第Vc層に出現し、Vb層に増加する。この類は本遺跡では少ない。この点から、本遺跡の第II群土器の主体は三内丸山遺跡第6鉄塔地区第Vc層に対比できると思われる。小笠原（小笠原 2000）は三内丸山遺跡第6鉄塔地区第Vc層出土土器を内容は異なるとしながらも、三宅（三宅 1974）の円筒下層b1式に対比している。

三宅（三宅 1974）茅野（茅野 2004）は円筒下層式期の地域差について検討し、本遺跡を含む南部地方と津軽地方では地域差があることを指摘している。そこで、この地域の土器と本遺跡の土器を対比して、前段階の型式と分離できることを確認する必要がある。

烟内遺跡F捨て場出土土器は円筒上層a式と考えられている。器形は大略、A. 器厚が低く底部から口縁部に向けて直線的に開くバケツ形のもの、B. 腹部中位から上位でやや内湾し口縁部がやや外に開く器形がある。頸部の区画は隆帯を持たないものを持つものがある。隆帯を持たないものはどちらの器形にも見られるが、隆帯を持つものは後者の器形にのみ見られる。隆帯の形状は、高いもののみ見られる。隆帯上の装飾は無文・棒状工具による刺突・回転繩文・沈線・斜位の刻み・燃糸側面圧痕がある。器形の面ではB.は本遺跡の第II群と共に通するが、隆帶上に沈線を施すものは本遺跡ではなく、また、隆帯を持つものの比率も本遺跡の方が高い。また、器形Aは本遺跡にもあるが、烟内遺跡に比べて器高が高いものが多く、煙内遺跡F捨て場出土土器とは異なる様相を示している事は明らかで、円筒下層a式からは分離できると考えられる。
(中村)

引用・参考文献

- 江坂輝彌 1970 『石上遺跡』 ニューサイエンス社
 村越 潔 1974 『円筒土器文化』 雄山閣
 三宅徹也 1974 「青森県における円筒下層式土器の地域的展開」 北奥古代文化 6
 1977 「円筒土器の概念とその崩壊」 『調査研究年報』 第3号 青森県立郷土館 pp.125-145
 1981 「円筒土器」 『縄文文化の研究』 第3巻縄文土器 I 雄山閣 pp.177-189
 鈴木克彦 1978 「熊沢遺跡」 青森県埋蔵文化財調査報告書第38集 青森県教育委員会
 三浦圭介 1990 「(I) 李沢遺跡出土土器の編年の位置づけについて」 『李沢遺跡』 第3章第1節 青森県埋蔵文化財調査報告書第130集 青森県教育委員会 pp.213-215
 工藤 大 1995 「第1節縄文土器」 『田小屋野貝塚』 第6章 青森県立郷土館調査報告第35集 青森県立郷土館 pp.90-102
 青森県教育委員会 1997 「三内丸山遺跡 VI」 青森県埋蔵文化財調査報告書第230集 青森県教育委員会
 青森県教育委員会 1998 「三内丸山遺跡 IX」 青森県埋蔵文化財調査報告書第249集 青森県教育委員会
 小笠原雅之 2000 「円筒下層a式といわゆる白座式について - 現状とその問題点の把握」 『村越潔先生古稀記念論文集』 弘前大学教育学部考古学研究室OB会 pp.33-52
 2002 「第2節道具 1 土器」 『青森県史別編 三内丸山遺跡』 第IV章 pp.116-128
 茅野嘉雄 2004 「円筒下層a式の変遷と地域性について」 『専修考古学』 第10号専修大学考古学会 pp.1-17

第2節 土製品（図21-190,191）

190は土器片を利用した円盤状土製品である。周縁部は打ち欠きによって成形されている。土器の外面であった面はLR縄文が横位回転施文される。このような土製品は円筒下層式前半期に見られる。191は耳栓である。胎土から縄文時代中期以降のものと思われる。
(中村)

第3節 石器（図23～28）

石器と認められるものほとんどを掲載し、そのうちわけは剥片石器41点、礫石器48点である。

石器は、原則的に鈴木道之助氏の分類に従った（鈴木1991,1995）。詳細は石器観察表に譲り、以下、器種とその細分類を順を追って説明し、さらに特徴的な石器について説明する（図23～28）。

無茎鍬は平基と凹基があり、凹基はいずれも抉りが小さい。3は先端部に両側から抉りが入っており、先端が尖る。有茎族は凸基と平基がある。13は鍬身の長さと茎部のそれが1:1であり、石錐の可能性もある。8は、裏面が被熱によってはじけている。9は円基鍬である。

石匙は縦形と横形がある。縦形の中でも22は細身、長身で先端が尖る。石籠は2点（23,24）あり、いずれも両面加工である。搔器としたのは、急角度加工を施したものであり、1点確認されている（26）。削器としたのは、剥片の側縁、先部に連続的な調整を施し刃部をつくりだしたもので、搔器のように急角度加工でないものである。29は搔器と削器との区別が難しいが、刃部の基準により削器に含めた。削器は12点出土しているが、石匙のように定型的なものはない。刃部の形状が機能差を関連するとすれば、それによって5種類に分けられる。円い刃部をもつもの（27,28,29,87）、凹む刃部をもつもの（30,31,32）、直線的な刃部をもつもの（33,88）、凹む刃部と直線的な刃部をあわせもつもの（34）、凹む刃部と円い刃部をあわせもつもの（86）である。剥片石器の未製品としたものは3点ある（35,36,37）。35,37は石核と見る向きもあるが、明確な根拠に乏しいため剥片石器の未製品とした。36は粗い調整は施してあるが、明確に機能部をつくりだしていないため剥片石器の未製品とした。38は楔形石器で両極剥離が認められる。

40は小形の磨製石斧である。丁寧に磨かれている。刃部が一部欠けている。

半円状扁平打製石器としたものは、15点である。ここでは形態が扁平で、打ち欠きがあり、長細い擦痕を有するものをこの石器の範疇に含めた。形態は大部分が半円状であるが、方形状（54,55）、三角形状（53）もみられる。また、他のものに比べ扁平で、擦痕の周辺などに磨きが施された一群が確認される（41,42,44）。磨石、敲石は、1)磨り、敲き（敲磨石）、2)磨りのみ（磨石）、3)敲きのみ（敲石）の3種類が確認される。1)敲磨石は一つの石で磨りと敲きを行ったもの（56,58）、2)磨石は石の側縁部を利用したものが確認される。3)敲石は扁平な石の面部分を利用するものと長細い石の端部を利用するものがある。それぞれ、両面、両端利用、片面、一端利用するものに分けられる。石皿は全体形を推測できるものはない。85は脚付石皿の脚部分と思われる。78は凹石としたもので、蒲鉾板状の石の両面に凹み状の痕跡が確認される。76,77も凹みが確認される。80は石錐で、扁平で長円形の石の両端に打ち欠きで抉りが施される。79は打ち欠いて整形されたもので、打製石器の未製品とも考えることができる。

（岩田）

参考文献

鈴木道之助 1991『石器入門事典—縄文』柏書房

鈴木道之助 1995「3石鍬」『縄文文化の研究7道具と技術』雄山閣 88-95頁

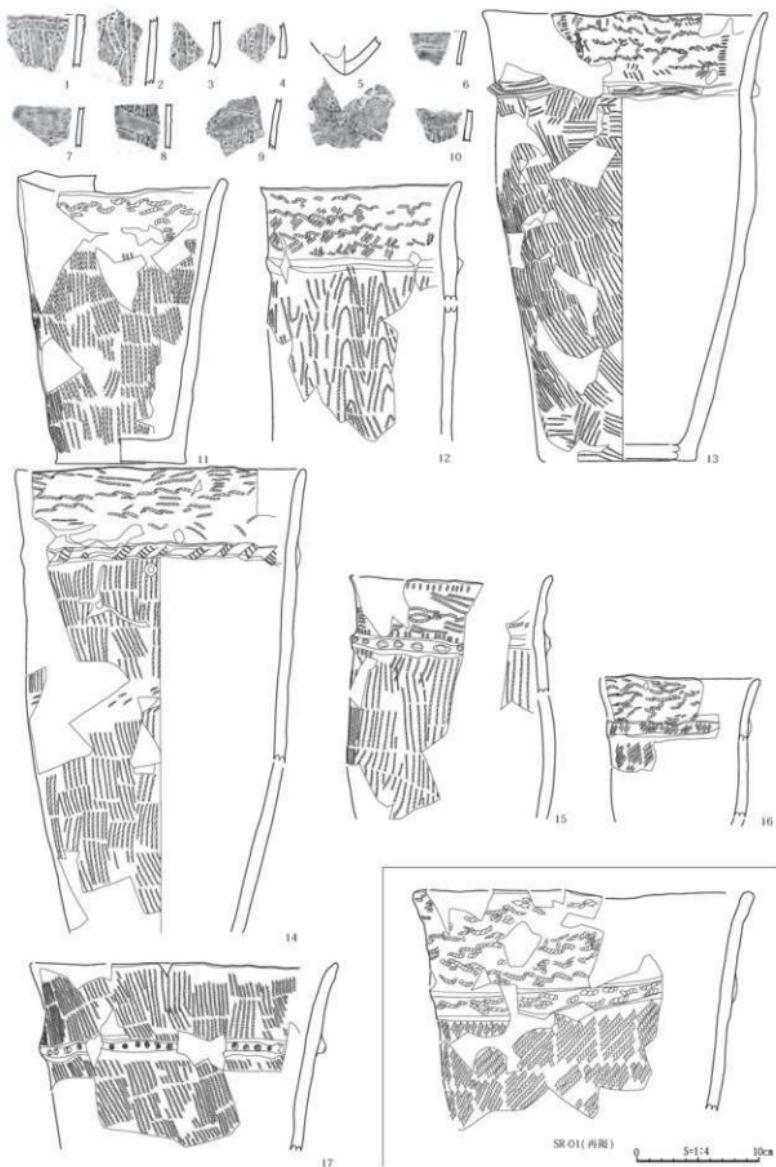


図 13 遺構外出土土器（1）

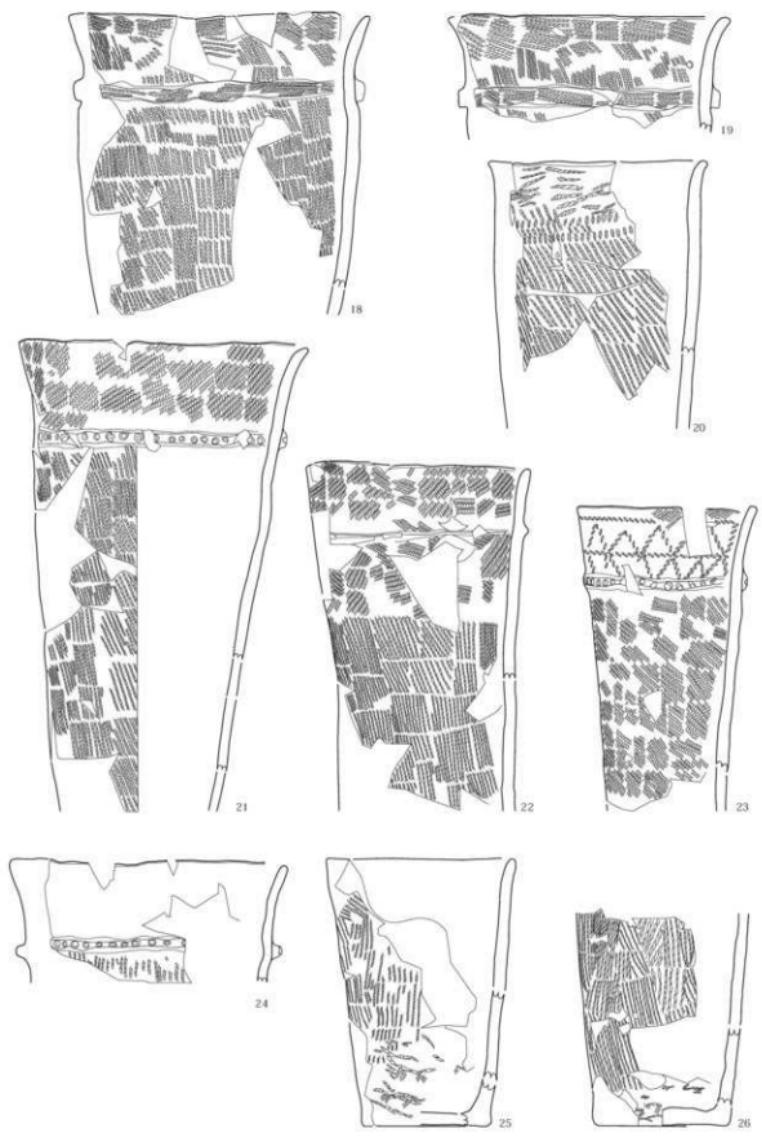


図 14 遺構外出土土器（2）

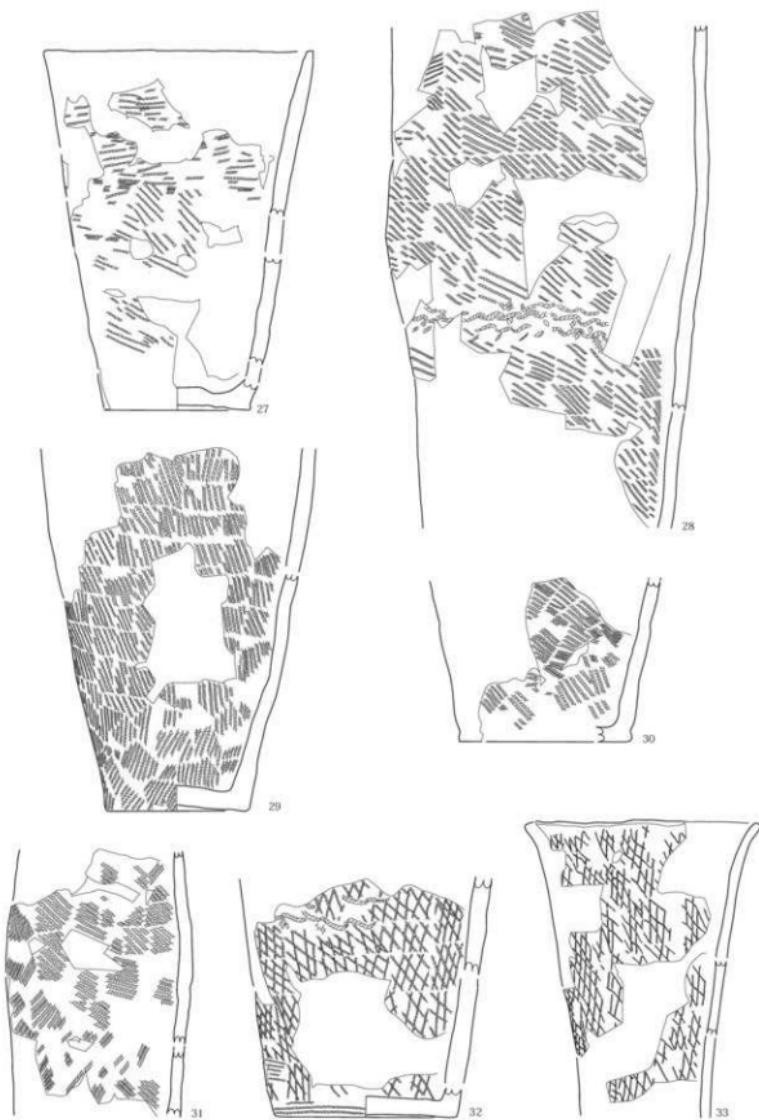


図 15 遺構外出土土器 (3)

0 5-1:4 10cm

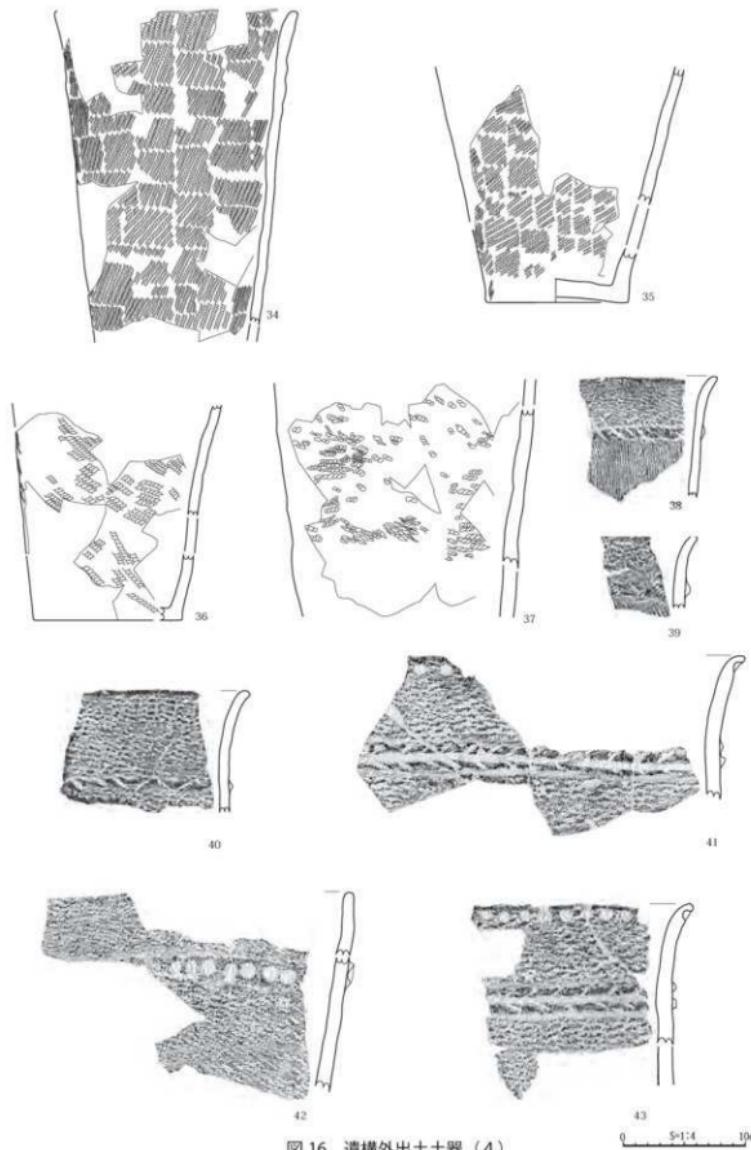


図 16 遺構外出土土器 (4)

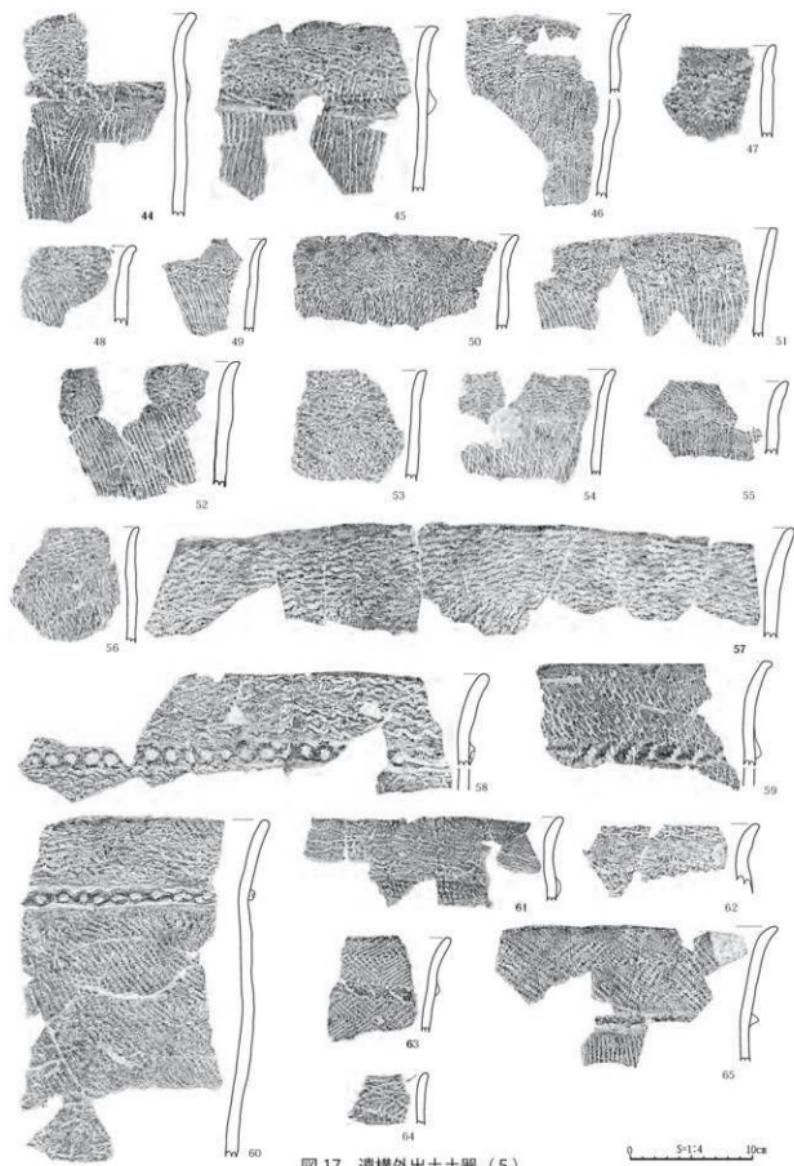


図 17 遺構外出土土器 (5)

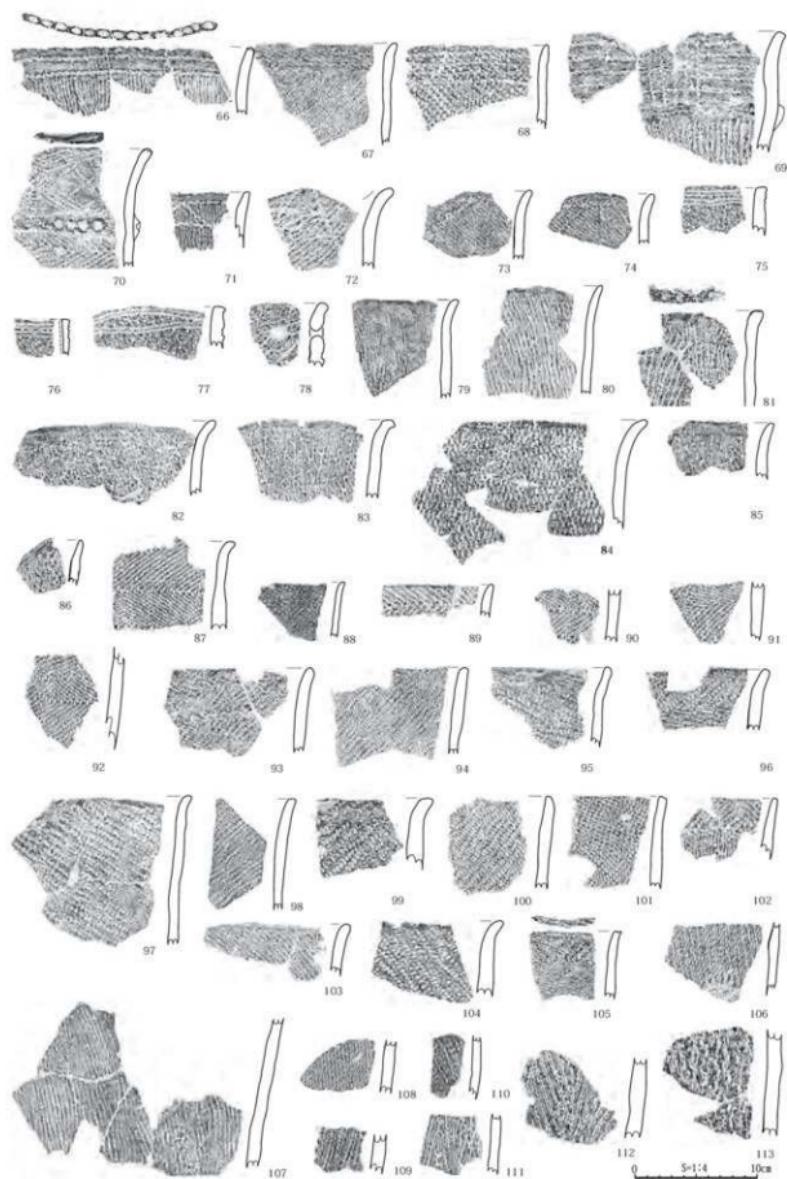


図 18 遺構外出土土器 (6)

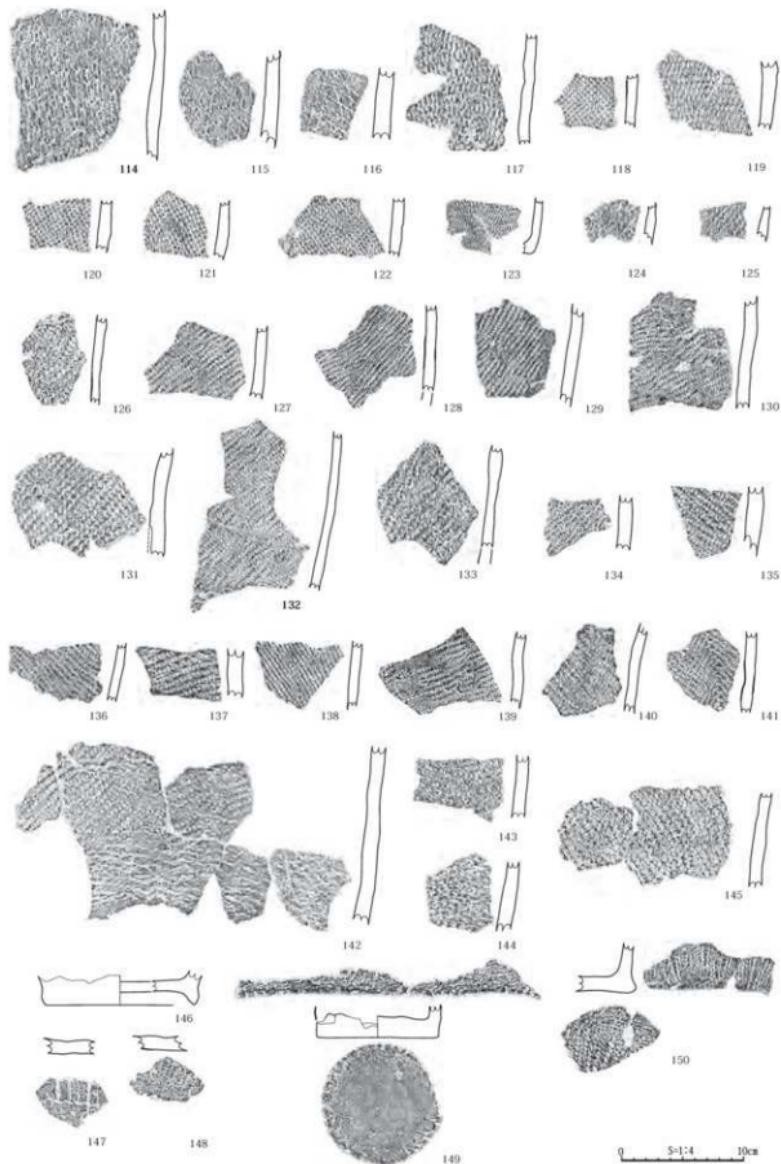


図 19 遺構外出土土器 (7)

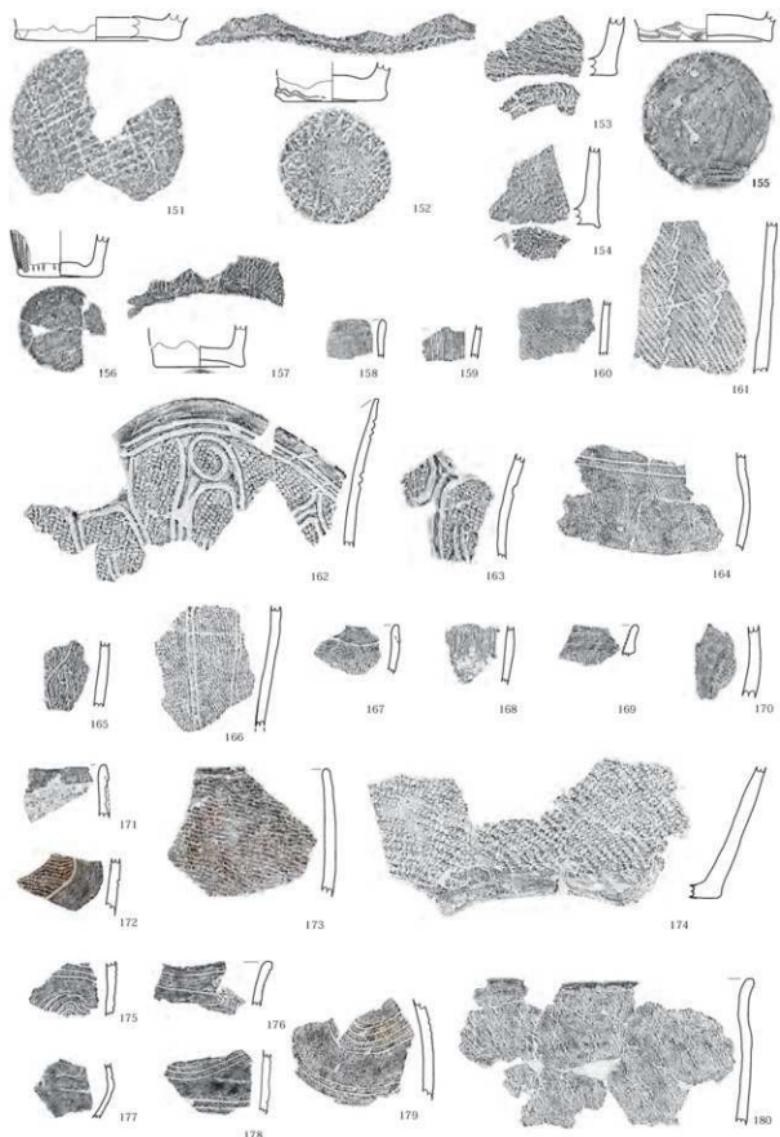


図20 遺構外出土土器 (8)

0 5:1:4 10cm

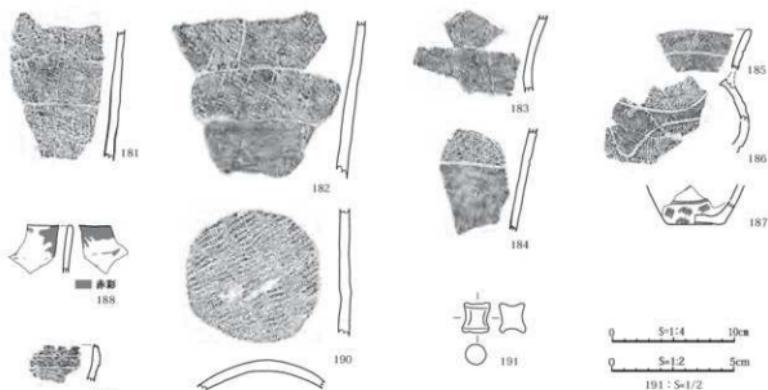


図21 遺構外出土土器（9）・遺構外出土土製品

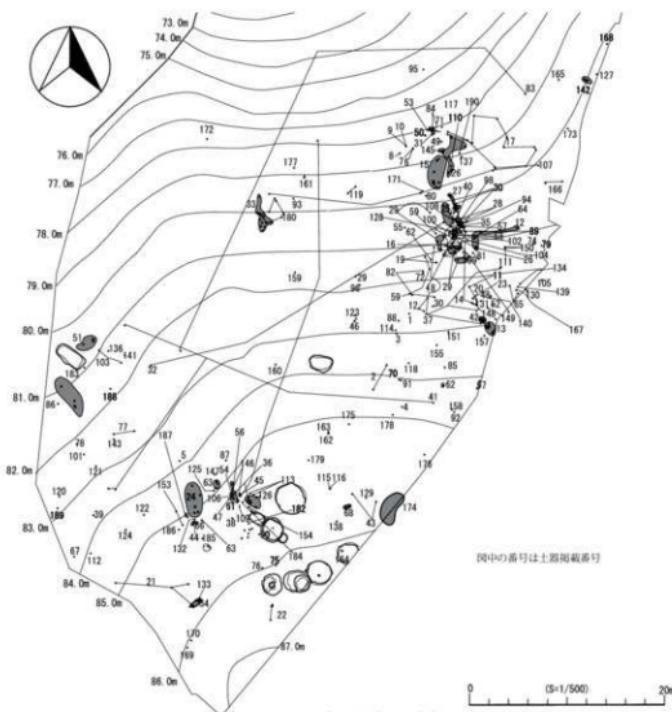
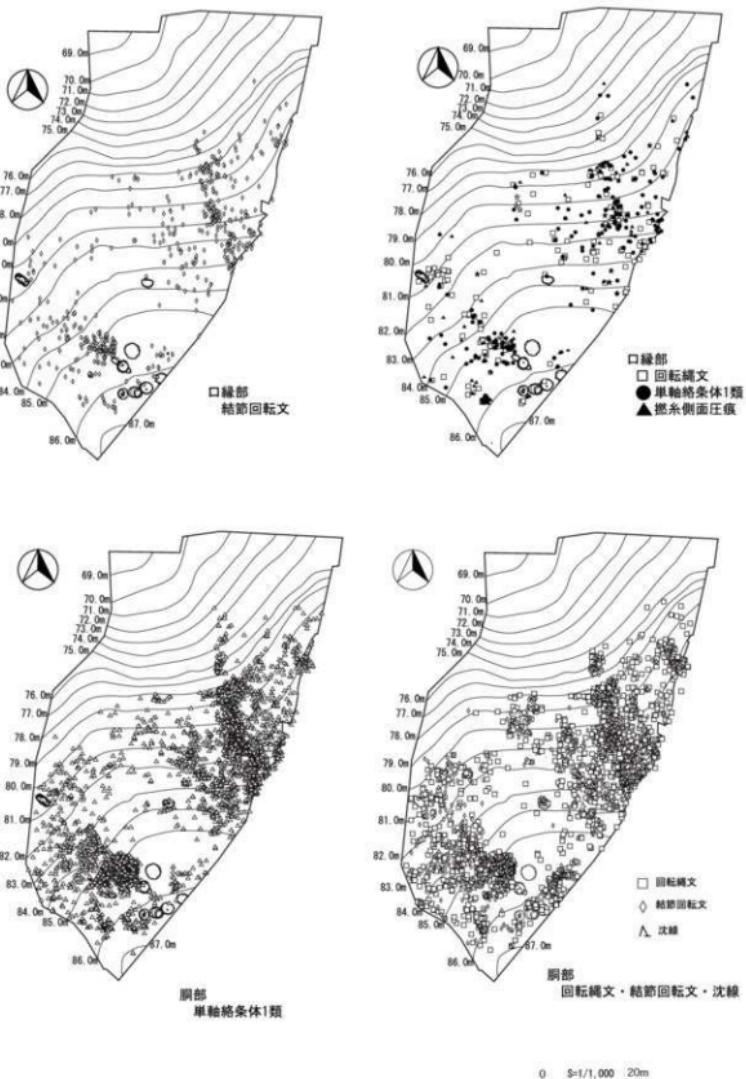


図22 土器分布図（1）



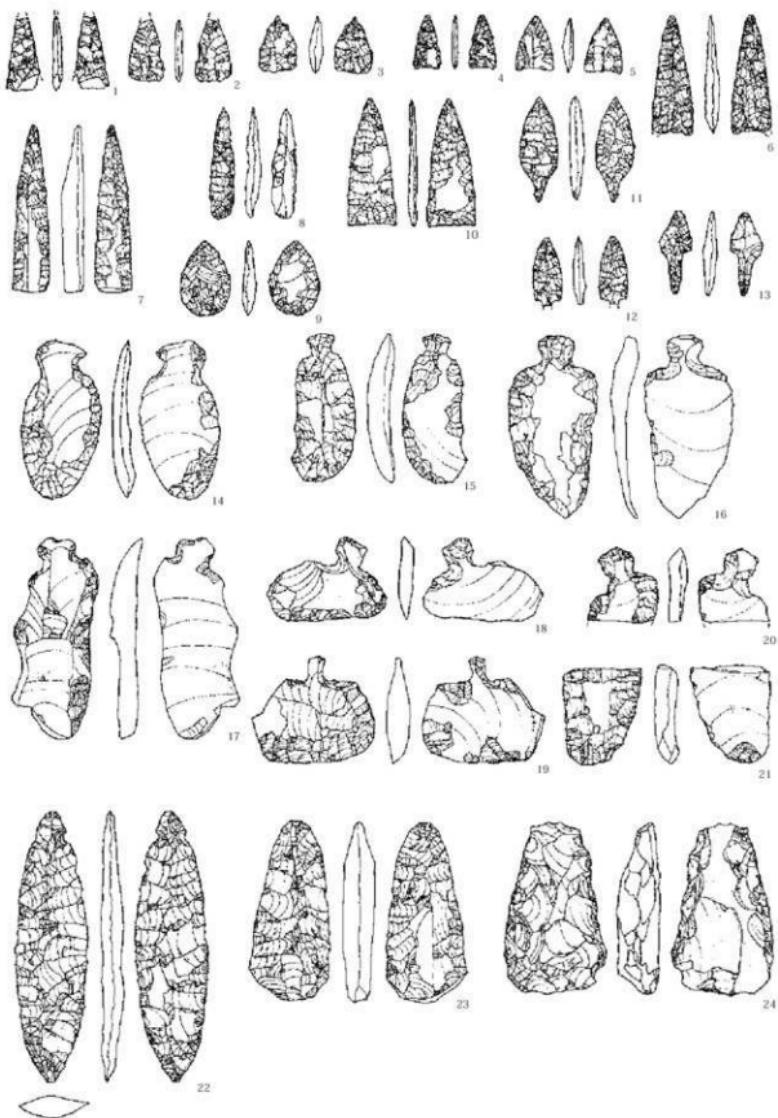


図23 遺構外出土石器(1)

0 S=1:2 5cm

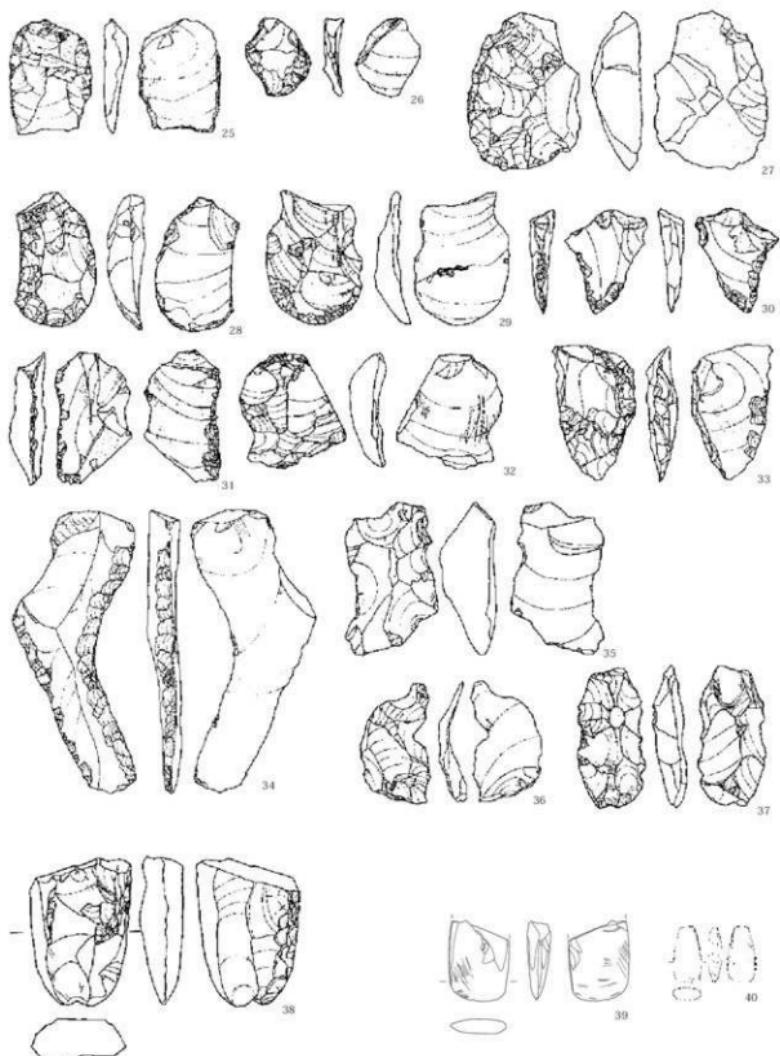


図24 遺構外出土石器(2)

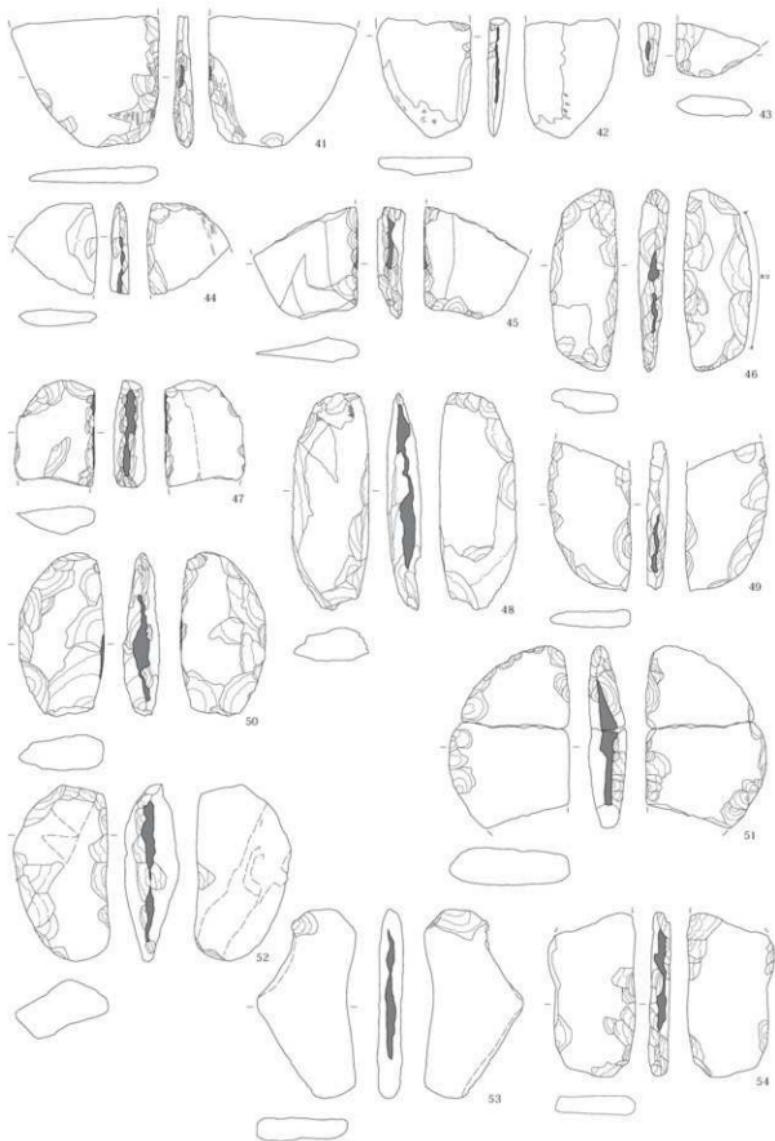


図25 遺構外出土石器(3)

0 5:1:4 10cm



図26 遺構外出土石器(4)



図27 遺構外出土石器(5)

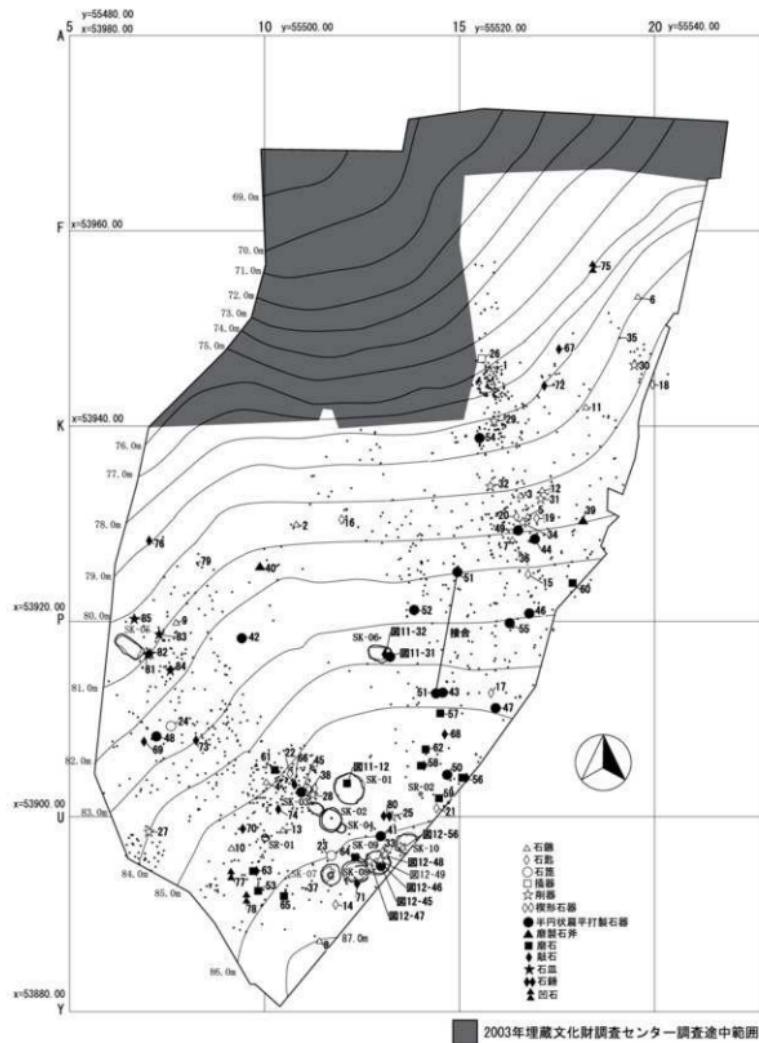


図28 石器分布図

遺構内出土土器觀察表

探査	番号	取上番号	遺構 名	層位	重量	部	部位	口縁部文様	頸部 区画	頸部X面 上文様	胴部文様	底面	備考
II	1	P95	SK-01	135	28.9	4	口縁部	回転繩文(直跡)					
II	2	P90	SK-01	21	29	2	胴部				回転繩文(直跡)・結		
II	3	P93 P46	SK-01	4+8	67.5	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	4	P29-1 P40-1	SK-01	7+18	43.5	2	口縁部～胴部	横糸脚山文	無		回転繩文(直跡)		
II	5	P92 P83	SK-01	4+5	37.5	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	6	P34	SK-01	21	43.4	2	胴部				多輪絞糸体		
II	7	P12	SK-01	4	48.2	2	胴部				単筋1		
II	8	P37	SK-01	18	22.4	2	胴部				粘附回転文		
II	9	P2 P75 P86	SK-01	1+203	72.6	2	胴部				多輪絞糸体		
II	10	P9	SK-01	10	39.1	2	胴部				多輪絞糸体		
II	11	P86	SK-01	5	29.3	2	口縁部～胴部	粘附回転文	無		単筋1		
II	13	P67	SK-02	17	26.4	2	胴部				回転繩文(直跡)・回転繩文		
II	14	P28	SK-02	17	14.8	2	胴部				単筋5		
II	15	P25	SK-02	17	32.3	2	胴部				単筋1		
II	16	P69	SK-02	18	12.1	2	胴部	粘附回転文					
II	17	P7	SK-02	1	13.6	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	18	P58-2	SK-02	1	60.7	2	口縁部	粘附回転文					
II	19	P58-1	SK-02	1	26	2	胴部				単筋1		
II	20	P49	SK-02	1	14.5	2	口縁部～胴部	単筋1	無		単筋1		
II	21	P9	SK-03	1	11.6	2	口縁部				粘附回転文		
II	22	P5	SK-03	1	32.1	2	胴部				単筋1		
II	23	P8	SK-03	1	22.4	2	胴部				単筋1・粘附回転文		
II	24	P27	SK-06	1	204.1	2	胴部～底部				回転繩文(直跡)・回転繩文(外周部)痕		
II	25	P6	SK-06	1	32.7	2	胴部				粘附回転文		
II	26	P21 P32-1	SK-06	1	57.4	2	胴部				粘附回転文		
II	27	P22	SK-06	1	18	2	口縁部	回転繩文(直跡)					
II	28	P15 P29 I P30	SK-06	1	40.8	2	胴部				粘附回転文		
II	29	P23	SK-06	1	93.2	2	胴部				単筋1		
II	30	P2 P3 P4 P51 P52	SK-03	1	91.1	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	33	P1	SK-07	1	8.8	2	胴部				単筋1		
II	34	P12	SK-08	3	13.3	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	35	P18	SK-08	3	18.1	2	胴部				回転繩文(直跡)		
II	36	P17	SK-08	4	8.2	2	口縁部	口縁部：側面 口縁部：側面					
II	37	P37-1 P3265 P42 P47 P51 P52 P53-1 P62-1	SK-09	1	172.7	4	口縁部～胴部	回転繩文(直跡) 単筋			回転繩文(直跡) 斜筋		
II	38	P14 P16 P21 P685-2	SK-09	2+1	71.8	4	口縁部～胴部	回転繩文(直跡) 単筋			回転繩文(直跡) 斜筋		
II	39	SK-01 P27 潟柄 P685-3	SK-01	1+1	73.8	4	口縁部	回転繩文(直跡) 単筋			回転繩文(直跡) 斜筋		
II	40	P64	SK-09	4	14.7	2	口縁部	粘附回転文					
II	41	P24	SK-09	1	13.1	4	口縁部	粘附回転文					
II	42	P10 P61	SK-09	1	32.4	4	胴部				足牙牙		
II	43	P19	SK-09	1	161.3	4	胴部～底部				回転繩文(直跡) 斜筋	圧痕？削消	
II	44	P31 P32 P35 P39	SK-09	3	53.5	4	胴部～底部				回転繩文(直跡) 斜筋	無文	
II	50	P31 P43 P54	SK-10	2	27.1	4	胴部				回転繩文(直跡)		
II	51	P1 P21	SK-10	1	25.1	4	口縁部	平行沈線 沈線による 格子文					
II	52	P40 P52-1 P55	SK-10	2	44.3	4	口縁部～胴部	回転繩文(直跡)					
II	53	P6 P9	SK-10	1	220.8	4	胴部～底部				回転繩文(直跡)		
II	54	P426-2	遺柄6	1	36	4	胴部				回転繩文(直跡)	55と同一 胴体	
II	55	P28-1	SK-10	1	39.8	4	胴部				回転繩文(直跡)		
II	57	SK-08 P2 SK-09 P40 P58 P59 P65 SK-0-8 P67 P68 P70 SK-10 P27 0910		2	胴部～底部						回転繩文(直跡)	無文	

遺構外出土土器觀察表

探査	番号	取上番号	層位	重量	部	部位	口縁部文様	頸部 区画	頸部X面 上文様	胴部文様	底面	備考
13	1	P6163-1	Ⅲ	17.3	1	口縁部	平行沈線による斜 角尖			風紋の平行沈線・斜 角尖間に側突		
13	2	P277-3 P465-2	Ⅲ	14.4	1	胴部				"		
13	3	P4914	Ⅲ	5.9	1	胴部				"		
13	4	P3962-1	Ⅲ A	5.1	1	胴部				"		
13	5	P8344	Ⅲ A	27.7	1	底部				ナデ 実底		
13	6	P7599	Ⅲ	3.6	1	口縁部				微隆感		
13	7	P7728	Ⅲ	8	1	胴部				条状		
13	8	P7737	Ⅲ	6.9	1	胴部				圓錐形		
13	9	P7503	Ⅲ	11.1	1	胴部				微隆感		
13	10	P7739	Ⅲ	4.8	1	胴部				微隆感		

図版	番号	版上番号	層位	重層	群	部位	口縫部文様	頭部 区画	頭部X面 上文様	側部文様	底面	備考
13	11	P4990 P5558-2 P6205 P6207-1 ~ 5	P6297	II	1105.5	2	口縫部~側部	粘接時転文	無	単筋1		
		P5643 P7073										
13	12	P5691-1 P603 P5666-1 P6084-1 P6103	III	865.7	2	口縫部~側部	粘接時転文	隠帶	無	単筋1A		
		P6160 P6854 P6865-1 P7404-1										
13	13	P4205 P4206 P4209-1 P4210 P4556 P5870	III	•	1245.0	2	口縫部~側部	粘接時転文	隠帶 (1段)	単筋1類	単筋1	
		P5871 P5872 P5874 P5875-1 ~ 4 P5878	III A									
		P5879 P5880-1 ~ 2 P5894 P6212 P6214										
		P6217-1 ~ 3-4-5-7-11 P6773 PXM017										
13	14	P4297 P5791-1 ~ 5	P6201 P6301 P6302	III	1265.5	2	口縫部~側部	粘接時転文	隠帶 (1段) 直面	単筋1類	単筋1	
		P6033 P6301-1 P6368										
13	15	P2249 P5182 P5183-1 P5184-1 P5754-1	I	•	391.8	2	口縫部~側部	単筋1回転・単筋1直面	隠帶 (1段) 直面	単筋1類	単筋1	
		P5757 P5759 P5770 P5771-2 P6747	III	•								
		III A										
13	16	P5993 P6274 P6275 P6353-2 P6992	III	•	1242.2	2	口縫部~側部	粘接時転文	隠帶 (1段) 直面	回転・隠文	回転圖文(LR)	
		P6994 P7067 P7219 P7365 P7369 P7422	III	•								
		III A										
14	17	P6645 P6658 P6687 P6751-1 ~ 2 P6873	III	•	658.4	2	口縫部~側部	単筋1	隠帶 (1段) 直面	竹管状工具	単筋1	
		P6884 P7067 P7219 P7365 P7369 P7422	III	•								
		III A										
14	18	P4280 P4303 P4304 P4847 P5283 P5285	II	•	703.9	2	口縫部	単筋1	隠帶 (1段)	単筋1類	単筋1	
		P5743-3 P5795 P6258-1 P6277 P6457	III	•								
		P6459 P6601 PNM-17										
14	19	P4302 P4811-2 P5637-2 P5642 P6276	III	•	377.4	2	口縫部~側部	単筋1	隠帶 (1段) 直面	単筋1類	単筋1	
		P7225										
14	20	P6200-1 P6200-2	III	•	788.8	2	口縫部~側部	単筋1	直面 直面	単筋1	単筋1	
		P6200-1 P6200-2										
14	21	P608-2 P612-1 ~ 3 P616-4 P625-1 P636	I	•	1274.7	2	口縫部~側部	回転圖文(LR)	隠帶 (1段) による新 変	棒状工具	単筋1	
		P644-2 P650-2 ~ 8-14 P651 P730-3 ~ 6-8-16 P1023-18 ~ 20	V A	•								
14	22	P102-3 ~ 4-8-9-10-11-12 P108	I	•	834	2	側部	回転圖文(LR)	隠帶 (1段)	回転圖文孔跡	単筋1	
		P303-3 ~ 4-5-7-9 P3970	V A	•								
14	23	P6200-1-2	III	•	467.7	2	口縫部~側部	直面側面直面2	隠帶 (1段)	側面直面	回転圖文(LR)	
		P6200-1-2	III	•								
14	24	P3017-2 P3095 P3224 P3270 P3373 P3685	III A	•	152.6	2	口縫部~側部	無文	隠帶 (1段)	棒状工具	単筋1	
		P3017-2 P3095 P3224 P3270 P3373 P3685	III A	•								
14	25	P6312 P6533 P6515 P6516 P6519-2 P6537	III	•	401.6	2	側面~底部	無文	単筋1	粘接時転文		
14	26	P6707-1 P6713 P6723 P6735 P6999 P7001	III	•	323.6	2	側面~底部	無文	単筋1	粘接時転文	無文	
		P7387 P7474 P7524	III A	•								
15	27	P4980 P6331-1 ~ 3 P639 P6397 P6399-1	III	•	1426.1	2	口縫部~底部	単筋1	無	単筋1	無文	
		P6490-1 ~ 3-9 P6490-9 P6514-1 ~ 2 P6943 P6944-1 P7300										
15	28	P4337 P4973 P5109 P5111 P5792 P5794	III	•	1225.3	2	側部	無文	単筋1	粘接時転文		
		P5805 P5811 P6007 P6065-1 P6309 P6361 P6382 P6425 P6427 P6431 P6435 P6441 P6492 P6511-1 P6513 P6527 P6532 P6917										
15	29	P4312 P4727 P4738 P5284-1 P5286	II	•	906.7	2	側部~底部	無文	単筋1	単筋1	単筋1	
		P5632-1 P5636 P5639 P5640-1 P5645-3	III	•								
		P5733-1 P5737 P5985 P5997-1 P5997-2 P6258-2 P6557										
15	30	P4353 P4702-3 P5600 P5798-1 P6303	II ~ III	•	288.3	2	側部	無文	単筋1	単筋1	単筋1	
		P6604	•									
15	31	P7277-2 ~ 16-21 ~ 25-26 P7277	III	•	595.9	2	側部	回転圖文(LR)				
15	32	P7277-7-8	III	•	1247.5	2	側面~底部	無文	単筋5	単筋5		
15	33	P7130 P7050 P7051 P7107 P7109 P7110	I	•	1394.1	2	口縫部~側部	単筋5	単筋5			
		P7112-1 P7113 P7182 P7185 P7186	III	•								
		P7187-1 P7293 P7294 P7441 P7691	III A	•								
16	34	P625-2 P6107-2 P6108-3 P6102-16 P6104-8	I	•	720.3	2	口縫部~側部	無文	回転圖文(LR)			
		~ 12										
16	35	P6378-1 P6388 P6412 P6413 P6422	III	•	817.6	2	側部~底部	無文	回転圖文(LR)	無文		
		P6510-1 P6539-1 P6539-2 P6927 P6928 P7087										

編號	番号	取上番号	層位	垂量	群	部位	口緣部文樣	瓶部 區畫	瓶部 上文樣	瓶部文樣	底面	備考
16	36	P161 P182-2 P1226 P1261 P1275 P1279 P1282 P1283 P1284-2 P1285 P1342 P1347-1 P1398 P1399 P1400 P1406	I + II	354.9	2	銅部~底部				回転文 (JL)	廣狀左旋	
16	37	P5122 P5237 P5521 P5553 P5883 P5884 P5885 P5886 P5922-1	III	690.7	2	銅部				粘附回転文		
16	38	P3658	III A	69.6	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		單語 I		
16	39	P20652	II	39.8	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		單語 I 順		
16	40	P7040	III	131.8	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		粘附回転文		
16	41	P431-2 P2776 P2916 P2925 III A	II	240.1	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		單語 I + 粘附回転文		
16	42	P226 P5887 P5888 P5889	III	282.7	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 錫狀工具 (II段)		粘附回転文		
16	43	P231-2 P241-2	I		2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		粘附回転文		
17	44	P3693 (X) 1972	III A	30	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 左旋		單語 IA		
17	45	P1295-2 P1337-2 P1499 P7629 PX(妙)	III -	136.8	2	銅部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段) 回軛		單語 I		
17	46	P60798-1 P60798-2	III A	267.2	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	47	P1185	III -	60.4	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	48	P4635	III	49.3	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	49	P7557	III	35.2	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	50	P7267 P7414	III	139.6	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	51	P2280 P2584 P2638 P2823	II A	141	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	52	P5918-1	III	129.6	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	53	P7886	III	82	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 I		
17	54	P1333 P1429-1 P1440	III -	76.4	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 5		
17	55	P4835	III	68.5	2	口緣部~銅部	單語 I	無		單語 I		
17	56	P1344 P1365-2	III -	65	2	口緣部~銅部	粘附回転文	無		單語 5		
17	57	P1866-2 P5655-1 P5657 P6036-2 P6038 P6488 P6507	II -	516.7	2	口緣部	粘附回転文	錫帶 (II段)				
17	58	P591-3 P6013 P6024 P6030-1 P6280	III	333.4	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 錫狀工具 (II段)		粘附回転文		
17	59	P1952-1 P1523-1 P5014-2 P6178 P6194	II	156.2	2	口緣部~銅部	單語 6	錫帶 (II段) 左旋		單語 6		
17	60	PX	妙	550.8	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 無系側面 (II段)		回転文 (JL)		
17	61	P875-2 P1315 P1320-1 P1336 P1357 P1365-1 P1540	III -	113.8	2	口緣部~銅部	粘附回転文	錫帶 (II段)		單語 I 順		
17	62	P4812 P4807 P4808	III	59.3	2	口緣部	粘附回転文					
17	63	P3688	III A	52	2	口緣部~銅部	羽狀繩文	錫帶 (II段) 左旋		羽狀繩文		
17	64	P6486-2	III	15.5	2	口緣部	無系側面左旋 1 + 單語 1					
17	65	P6766 P6838 PN1 PX(M-17)	III -	137.2	2	口緣部~銅部	羽狀繩文	錫帶 (II段)		單語 I		
18	66	P3149 P3262 P3689-2	III A	66.8	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 1	無		單語 I		
18	67	P832	II	60.3	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 2	錫帶 (II段)		單語 I		
18	68	P194 P195		48.5	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 1	無		回転文 (複)		
18	69	P3308-4 P3310-1 P8384	III A	149.8	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 2	錫帶 (II段)		單語 I		
18	70	P2118-2	I	83.8	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 2	錫帶 錫狀工具 (II段)		羽狀繩文		
18	71	P7980	III	15.4	2	口緣部~銅部	無系側面右旋 2	無		單語 I		
18	72	P4397	III	41	2	口緣部	無系側面右旋 2 + 花					
18	73	PX		30.3	2	口緣部	無系側面右旋 2 + 花					
18	74	P5532	III	21.3	2	口緣部	無系側面右旋 2 + 花					
18	75	P3836	II	25.8	2	口緣部	平行波線文	無		前後反撲		
18	76	P34-2	I	6.5	2	口緣部	平行波線文	無		前後反撲		
18	77	P2710 P3187	II	43.9	2	口緣部	平行波線文	無		前後反撲		
18	78	P2782	II	23	2	口緣部	沈繩文					

回数	番号	取上番号	部位	重筆	筆	部位	口輪部文様	脇部 区域	頭部文様 上文様	頭部文様	底面	備考
18	79	P5536	III	48.5	2	口輪部～側部	単語1	無	單語1			
18	80	P4837	III	55.8	2	口輪部～側部	単語1	無	單語1			
18	81	P4285 P4340	III	47.7	2	口輪部～側部	単語1	無	單語1			
18	82	P5610 P6719 PX8-16)	III *	83.1	2	口輪部～側部	単語6	無	單語6			
18	83	P3447 P5498	III *	68.1	2	口輪部～側部	単語6	無	單語6			
18	84	P7878-1 P7885-3 P7888 P7942-1 P7945 P7984 P8096-1	III	136.0	2	口輪部～側部	多輪筋条体	無	多輪筋条体			
18	85	P528	II	27.5	2	口輪部	単語6					
18	86	P250	III A	10.7	2	口輪部	LLR					
18	87	P956-2	III -I	81.3	2	口輪部～側部	羽状織文	無	羽状織文			
18	88	P5359	III	13.7	2	口輪部	羽軸織文 (L)R	無	羽軸織文			
18	89	P7790-2 + 3	III A	19.1	2	口輪部	羽軸織文					
18	90	P8	I	24.2	2	側部			羽状織文			
18	91	P3116(1) + 379	III	27.8	2	側部			羽狀織文			
18	92	P5702	III	53.2	2	側部			羽狀織文			
18	93	P7681	III	60.4	2	口輪部～側部	羽狀織文・粘附回転文	無	羽狀織文・粘附回転文			
18	94	P6541	III	67.4	2	口輪部～側部	羽軸織文 (L)R	無	羽軸織文 (L)R			
18	95	P6180	III	35.3	2	口輪部～側部	羽軸織文 (R)L	無	羽軸織文 (R)L			
18	96	P4948	III	47.2	2	口輪部～側部	羽軸織文 (L)R 粘附回 転文					
18	97	P2157-1 P2158	II	139	2	口輪部～側部	羽軸織文 (R)R	無				
18	98	P6423	III	36.4	2	口輪部～側部	羽軸織文 (L)R	無	羽軸織文 (L)R			
18	99	P6897	III	55.1	2	口輪部～側部	羽軸織文 (L)R	無	羽軸織文 (L)R			
18	100	P5100	III	59.7	2	口輪部～側部	羽軸織文 (L)R	無	羽軸織文 (L)R			
18	101	P2240-1	I	47.2	2	口輪部～側部	多輪筋条体	無	多輪筋条体			
18	102	P6449	III	26	2	口輪部～側部	羽狀織文	無	羽狀織文			
18	103	P2284 P3454	II	38.7	2	口輪部	羽軸織文 (R)R					
18	104	P5663	III	62.5	2	口輪部	羽軸織文 (L)R					
18	105	P4522	II	28.7	2	口輪部	羽狀織文		羽狀織文			
18	106	P3620	III A	7.1	2	側部			單語1			
18	107	P6888 P6889 P7307 P7584 P7877	I *	211.5	2	側部			單語1			
			II * III									
18	108	P6068	III	23	2	側部			單語1			
18	109	P1361	III -I	15.7	2	側部			單語1			
18	110	P6731	III A	11.3	2	側部			單語1			
18	111	P5434-2	III	22.9	2	側部			單語1A			
18	112	P656-2	I	58.1	2	側部			單語1A			
18	113	P1530 P1554	I *	59.5	2	側部			粘附回転文			
			III A *									
			III -I									
19	114	P4406	III	134.7	2	側部			單語6			
19	115	P2176	I	60.7	2	側部			單語5			
19	116	P2174	I	48	2	側部			單語5			
19	117	P7699 P8009 P8010 P8011 P8012	III	74.7	2	側部			多輪筋条体			
19	118	P6785	II A	26.3	2	側部			多輪筋条体			
19	119	P7575 P2578	II	53.4	2	側部			多輪筋条体			
19	120	P3338	III A	30.6	2	側部			多輪筋条体			
19	121	P2781	II	29.5	2	側部			多輪筋条体			
19	122	P764	I	43.1	2	側部			多輪筋条体			
19	123	P479-3	II	19	2	側部			多輪筋条体			
19	124	P788	I	13.9	2	側部			直前段文標			
19	125	P916-3	II -I	8.4	2	側部			直前段文標			
19	126	P22	I	29.8	2	側部			回転文・直前			
19	127	P2172	I	47.1	2	側部			回転文・直前			
19	128	P6941	III	63.4	2	側部			回転文・直前			
19	129	P1713	I	64.9	2	側部			回転文・直前			
19	130	P4688-1 P4689	III	94.5	2	側部			回転文・直前			
19	131	P6211	III	98.4	2	側部			回転文 (複数)			
19	132	P3375	III A	88.2	2	側部			回転文・直前			
19	133	P1020	I	64	2	側部			回転文・直前			
19	134	P1435	I	31.2	2	側部			回転文・直前			
19	135	P6447	III	38.3	2	側部			回転文 (複数)			
19	136	P2621	II	34.4	2	側部			回転文 (直前)			
19	137	P6739	III A	47.2	2	側部			回転文 (直前)			
19	138	P173	I	38.1	2	側部			回転文 (直前)			
19	139	P6117	III	54.4	2	側部			回転文 (直前)			
19	140	P6229	III A	37.6	2	側部			回転文 (直前)			
19	141	P2838	I	32.8	2	側部			羽狀織文			

測面	番号	取上番号	層位	重量	直	部位	口縁部文様	縁部 区画	施加区画 上文様	縁部文様	底面	備考
19	142	P2460-2 P4029-2 P4032 P4037-1・2	I V A	227.1	2	胴部			回転彫文(LR) 細部 細部			
19	143	P2860	III A	47.7	2	胴部			前々段反復			
19	144	P6495-1	III	43.1	2	胴部			前々段反覆			
19	145	P7323 P7326-3	III	116.4	2	胴部			回転彫文(複数)			
19	146	P1533 P7379	II-1	102	2	胴部				無文 上底		
19	147	P23	III-1	31.7	2	底部			底部反彫			
19	148	P4788	III	25.9	2	底部			RL			
19	149	P4794	III	199.7	2	胴部～底部			粘附回転文	外周に圧痕		
19	150	P5434-1 P5546	III	89.7	2	胴部～底部			単語1	LR		
20	151	P6158	III-1 VII	252.5	2	底部			底状圧痕			
20	152	PX	妙2	201	2	底部			底状圧痕			
20	153	P3116-2 P3129	III A	11.2	2	胴部～底部			粘附回転文	粘附回転文		
20	154	P272-2	I	53	2	胴部～底部			回転彫文(複数)	回転彫文		
20	155	P519	II	231.3	2	胴部～底部			単語1	単語1		
20	156	P5790-2	III	87.8	2	胴部～底部			単語1	単語1		
20	157	P0811990	I	110.9	2	胴部～底部			単語1	単語1		
20	158	P1973	I	7.9	3	口縁部	条綱					
20	159	P4116	III	6.1	3	胴部			条綱			
20	160	P7790	I	21.2	3	胴部			底状彫文			
20	161	P7637 P7639		113.9	3	胴部			羽状彫位+粘附回転文 壓痕			
20	162	P3893-1・3+4・5 PXS-12	III	160.7	4	口縁部～胴部	無文		URL 織文地に沈継による曲線文			
20	163	P3893-2 P3895 PXN-12	III	20.9	4	口縁部～胴部	無文		URL 織文地に沈継による曲線文			
20	164	P694-2 P1718	I	87.6	4	胴部～口縁部		平行 沈継	単語1			
20	165	P2097	I	18.6	4	胴部			単語1 地文に沈継による曲線文			
20	166	P6630-2 P6634	III A	14.9	4	胴部			RL 織文地に垂下する沈継			
20	167	P6684-2	III	16.6	4	口縁部	折り返し口縁 条綱					
20	168	P2232-1	I	16.9	3	胴部			条綱			
20	169	P594	I	7.4	4	口縁部	底綱による区画内に回転彫文?					
20	170	P573	I	26.6	4	胴部			底綱による区画内に回転彫文			
20	171	P4838-5	III	15.8	4	口縁部	折り返し口縁					
20	172	P7245	II	28.9	4	胴部			潜伏彫文 (L)			
20	173	P2088	I	112.9	4	口縁部～胴部	回転彫文 (RL)		回転彫文 (RL)			
20	174	P2124 P2130 P2131 P2133 P2485	I	463.7	4	胴部～底部			回転彫文 (RL)	無文		
20	175	P3993	III	22.7	5	胴部			比較による曲線文	調文		
20	176	P3941	I	28.3	5	口縁部	沈継による曲線文					
20	177	P7645	II	12.9	5	胴部			沈継による曲線文			
20	178	P270	II	33.1	5	胴部			浅縫による曲線文+調文			
20	179	P323-3	I	80.6	5	胴部			浅縫による曲線文+調文			
20	180	P7105 P7111 P7128 P7189-1 P7204 P7237 P7650 PX(サク)	II	157.8	5	口縁部～胴部	単語5			単語5		
21	181	PX	妙3	81.9	5	胴部				単語5		
21	182	P865-3 PX(サク)	III-1	27.2	5	胴部				単語5		
21	183	P2425 P2426 P2495 P2793	II	40	5	胴部				単語1		
21	184	P1168	III-1	38.4	5	胴部			浅縫による区画内にLR光端			
21	185	P3154	III A	6	6	口縁部	平行浅縫による区画とLR					
21	186	P3135 P3380 PX(サク)	III A	16.9	6	胴部			浅縫浅縫による区画内にLR光端			
21	187	P3134 P3136-1 P3137	III A	39.7	6	胴部～底部			平行浅縫による区画内にLR光端			
21	188	P3829	II	8.8	7	口縁部	ミガキ					
21	189	P803-1	II	7.4	8	口縁部	RL 織文地 3条の平行浅縫 粘土板付	沈継による曲線文				

遺構外出土土器製品観察表

測面	番号	取上番号	層位	重量	直	外縁文様	時期	備考
21	190	P7525	III	118.6	LR 積位		前期後期	
21	191	P3099	III A	1.1	ナデ		中期以降	

棘探大圓（2）遺跡

遺構內出土石器觀察表

遺構	地點	層位	X	Y	Z	標註	長x寬	厚x寬	厚x長	重量	分類	石質	編號
PH.11.12. 24	石器		S3003.47	550608.53	58.501		3	1.1	0.8	5.7	63330	砂岩	
PH.11.12. 37	石器		S3004.58	5512.142	60.005		1	1.3	0.8	9.7	4541.4	砂岩	
PH.11.31. 30	下田原町平野石器		S3004.45	5512.173	63.517		2	1.7	1.1	3.5	753	砂岩	
PH.12.48. 5	石器		S3006.03	5512.229	60.509		1	1.0	0.7	3.4		田原町	
PH.12.45. 15	石器		S3004.89	5511.108	60.132	58.009	1	1.0	1.0	1.0	2.5	楓葉・円盤	田原町
PH.12.46. 23	石器		S3006.36	5511.178	60.286	58.009	1	1.0	1.0	0.4	1	楓葉・圓盤	田原町
PH.12.47. 30	石器		S3006.40	5511.180	60.286	58.009	1	1.0	1.0	0.4	2	楓葉・圓盤	田原町
PH.12.47. 30	石器		S3006.41	5511.180	60.286	58.009	1	1.0	1.0	0.4	3	楓葉・圓盤	田原町
PH.12.56. 14	石器		S3006.75	5551.082	60.005		1	1.1	0.7	0.8	6506		田原町
			S3006.75	5551.082	60.005		1	1.1	0.7	0.8	6506		田原町
			S3006.75	5551.082	60.005		1	1.1	0.7	0.8	6506		田原町

遺構外出土石器觀察表

遺構	地點	層位	X	Y	Z	標註	長x寬	厚x寬	厚x長	重量	分類	石質	編號
PH.23.1 1.233	石器		S3004.888	5523.072	70.553	B	0.0	1.4	0.4	1.5	楓葉・平底	田原町	
PH.23.2 1.136	石器		S3009.808	5530.042	60.672	B	0.0	1.4	0.3	1	楓葉・平底	田原町	
PH.23.3 0.640	石器		S3003.001	5526.454	80.571	A	2.3	1.5	0.6	1.8	楓葉・平底	田原町	
PH.23.4 1.1	石器		S3009.422	5526.454	94.999	A	2.2	1.5	0.6	1.8	楓葉・平底	田原町	
PH.23.5 0.641	石器		S3009.422	5526.454	94.999	A	2.2	1.5	0.6	1.8	楓葉・平底	田原町	
PH.23.6 0.642	石器		S3009.422	5526.454	94.999	A	2.2	1.5	0.6	1.8	楓葉・平底	田原町	
PH.23.7 0.839	石器		S3009.308	5525.209	60.419	B	0.0	1.5	0.3	0.6	806	楓葉・平底	田原町
PH.23.8 1.317	石器		S3001.001	5505.814	67.003	A	1.4	1.0	0.6	1.7		田原町	
PH.23.9 0.496	石器		S3001.001	5510.194	61.194	A	1.0	2.0	0.6	3.2	內底	田原町	
PH.23.10 2.223	石器		S3006.754	5549.686	65.738	I	5.2	2.0	0.3	3.4	楓葉・凹底	田原町	
PH.23.11 10.30	石器		S3004.986	5532.092	70.312	I	4.2	1.6	0.7	3.2	有穿・凹底	田原町	
PH.23.12 7.94	石器		S3003.023	5532.092	82.029	D	0.0	1.5	0.5	1.1	有穿・平底	田原町	
PH.23.13 1.000	石器		S3006.805	5532.092	87.009	D	0.0	1.5	0.5	1.1	有穿・平底	田原町	
PH.23.14 1.010	石器		S3001.013	5530.754	67.004	E	1.1	0.5	0.3	0.9	15.8	楓葉	田原町
PH.23.15 1.110	石器		S3004.771	5552.090	62.267	B	0.1	1.1	0.6	1.5	楓葉	田原町	
PH.23.16 1.374	石器		S3003.001	5508.003	60.052	B	0.0	1.7	1.1	2.1	楓葉	田原町	
PH.23.17 1.78	石器		S3001.205	5523.271	60.055	B	0.2	3.5	1.3	28.3	楓葉	田原町	
PH.23.18 0.617	石器		S3004.244	5539.739	61.369	I	0.5	4.8	0.6	7.2	楓葉	田原町	
PH.23.19 7.97	石器		S3003.461	5532.092	83.231	H	4.5	5.0	1.0	18.1	楓葉	田原町	
PH.23.20 9.92	石器		S3006.669	5532.092	80.018	H	0.0	1.2	0.6	0.8	楓葉	田原町	
PH.23.21 1.009	石器		S3006.669	5532.092	80.018	H	0.0	1.2	0.6	0.8	楓葉	田原町	
PH.23.22 2.290	石器		S3004.986	5503.029	65.465	H	1.1	1.5	2.0	9.8	楓葉	田原町	
PH.23.23 2.29	石器		S3006.040	5506.885	60.097	I	7.4	3.5	1.2	52.0	楓葉	田原町	
PH.23.24 547	石器		S3008.928	5549.005	60.005	B	0.0	1.1	0.1	54.0	楓葉	田原町	
PH.23.25 2.708	石器		S3009.049	5512.064	60.003	V	4.7	3.0	1.0	12.1	楓葉	田原町	
PH.23.26 1.115	鐵器		S3006.803	5532.073	70.730	H	0.3	2.7	0.8	6.1	田原町		
PH.23.27 2.222	石器		S3008.400	5548.077	64.063	B	0.5	2.1	2.1	3.6	刀柄頭	田原町	
PH.23.28 2.295	石器		S3006.145	5504.964	60.053	B	0.5	2.3	1.6	25.8	楓葉	田原町	
PH.23.29 1.125	石器		S3006.145	5504.964	60.053	B	0.5	2.3	1.6	25.8	楓葉	田原町	
PH.23.30 2.091	石器		S3006.132	5537.963	70.992	I	4.3	3.5	1.0	9.8	楓葉	田原町	
PH.23.31 3079	石器		S3003.526	5528.300	60.074	H	3.2	5.4	1.5	18.0	楓葉	田原町	
PH.23.32 11.008	石器		S3003.023	5523.080	60.074	H	4.7	4.3	1.5	20.1	刀柄頭	田原町	
PH.23.33 1.186	石器		S3003.361	5512.268	60.540	I	5.5	3.3	1.3	21.9	刀柄頭	田原町	
PH.23.34 2.024	石器		S3003.001	5512.268	60.540	I	5.5	3.3	1.3	21.9	刀柄頭	田原町	
PH.23.35 9.02	石器		S3003.001	5526.308	60.808	B	11.5	5.0	1.4	46.7	刀柄頭・内	田原町	
PH.23.36 2.294	下田原町小石製品		S3006.040	5536.016	70.233	I	6.3	3.0	2.3	30.8	田原町		
PH.23.37 1.102	鐵器		S3007.332	5532.073	70.001	B	0.0	2.9	1.1	7.8	田原町		
PH.23.38 1.103	下田原町小石製品		S3006.040	5532.073	70.001	B	0.0	2.9	1.1	7.8	田原町		
PH.23.39 1.156	下田原町小石製品		S3006.040	5527.225	65.800	E	1.4	5.6	1.0	23.9	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.40 1.105	下田原町小石製品		S3001.067	5523.272	65.187	E	0.8	2.5	0.3	17.7	楓葉	田原町	
PH.23.40 2.080	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.40 9.961	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.41 2.551	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.42 1.235	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.43 1.118	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.44 0.455	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.45 2.757	下田原町小石製品		S3001.274	5515.045	64.746	M	14.0	6.6	1.6	15.8	楓葉	田原町	
PH.23.44 4.622	下田原町小石製品		S3006.412	5515.020	63.065	H	17.6	6.6	1.6	20.9	楓葉	田原町	
PH.23.45 1.158	下田原町小石製品		S3006.412	5515.020	63.065	H	17.6	6.6	1.6	20.9	楓葉	田原町	
PH.23.46 1.159	下田原町小石製品		S3006.040	5547.225	65.800	E	1.4	5.6	1.0	23.9	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.47 1.105	下田原町小石製品		S3001.067	5523.762	65.187	E	0.8	2.5	0.3	17.7	楓葉	田原町	
PH.23.48 2.080	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.49 1.961	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.50 1.150	下田原町小石製品		S3006.202	5548.063	62.008	I	11.7	6.3	2.7	36.2	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.51 0.534	石器		S3006.417	5549.067	60.409	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.51 1.115	下田原町小石製品		S3006.417	5549.067	60.409	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.55 1.188	石器		S3006.520	5548.063	60.409	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.56 1.361	石器		S3004.843	5549.061	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.56 1.361	石器		S3004.843	5549.061	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.56 1.361	石器		S3004.843	5549.061	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.57 1.188	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.57 1.188	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.57 1.188	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.58 1.455	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.59 1.122	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.60 1.455	石器		S3006.520	5548.063	60.403	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.61 0.97	石器		S3006.844	5549.060	60.408	I	13.5	8.3	2.0	27.7	カルフ・丸尖	田原町	
PH.23.62 2.007	石器		S3006.032	5545.116	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.63 1.317	石器		S3004.843	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.64 2.222	石器		S3006.844	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.65 1.154	石器		S3006.843	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.66 1.722	石器		S3006.843	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.67 1.722	石器		S3006.843	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.67 1.722	石器		S3006.843	5549.061	60.403	V	14.0	6.0	0.7	97.9	楓葉	田原町	
PH.23.68 1.117	石器		S3006.021	5546.027	60.403	I	14.5	8.3	1.7	138	楓葉	田原町	
PH.23.70 1.119	石器		S3001.439	5549.061	60.413	B	8.2	6.0	3.2	202.5	カルフ・凹底	田原町	
PH.23.70 4.440	下田原町小石製品		S3005.584	5549.061	60.413	B	13.2	8.7	3.7	500.8	楓葉	田原町	
PH.23.70 5.000	石器		S3000.045	5512.510	60.414	V	8.6	7.3	2.3	224.8	楓葉	田原町	
PH.23.71 1.532	石器		S3009.718	5547.006	61.096	V	14.0	7.0	2.0	229.1	楓葉	田原町	
PH.23.72 5.551	石器		S3009.711	5548.022									

第6章 まとめ

土器は縄文時代早期から後期、弥生時代の各時期のものが出土したが、主体は縄文時代前期中葉～後葉に属する。石器は縄文時代に属するものが各種出土している。

遺構は本調査区の尾根上に集中する傾向がみてとれるため、居住空間などの遺跡の主体は、遺構集中部から南東にのびる尾根上にその存在が推定される。平成14年度の調査では遺構は確認されなかつたが、平成15年度の調査で確認された遺構は、土坑10基、土器埋設遺構2基、人為堆積層1カ所である。第5号土坑を除き、遺構は縄文時代前期中葉～後葉以降に埋没している。土坑のうち4基がフ拉斯コ状土坑である。フ拉斯コ状土坑は、下層は大規模な壁の崩落を繰り返して短期間に埋まった層であり、上層は比較的時間をかけて埋まった層であることが推測される。よって、上層から出土する土器には、時間的に離れた縄文時代前期中葉～後葉と中期後葉に属するものが混在している場合がある。これらフ拉斯コ状土坑の廃絶時に近い年代を知るには、より下層から出土した遺物の所属時期で判断する必要がある。第1号土坑は、下層である第203層から縄文時代前期中葉～後葉に属する土器が出土している。このような遺構下層出土遺物の属する年代が最も第1号フ拉斯コ状土坑の属する年代に近いと推測される。第2, 9, 10号土坑から明確に下層から出土した遺物はなく、ほとんどすべてが上層から出土しているため、第1号土坑のように、より近い所属年代の推定は難しい。壁の崩落土量は相当量あるため、土坑使用時の状況と現在の完掘状況とは形態に著しい差のあることが分かる。

縄文時代以降では、炭化材の検出状況から炭窯遺構と推測される第5号土坑が確認された。このような遺構は隣接する長久保(2)遺跡でも確認されており、¹⁴C年代から古代の所産である可能性が指摘されている（青森県教育委員会 2004『長久保(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告第367集）。類似遺構は、東通村南通遺跡（青森県教育委員会 1983『下北地点原子力発電所建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』青森県埋葬文化財調査報告書第75集）・八戸市笹ノ沢(3)遺跡（青森県教育委員会 2002『笹ノ沢(3)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第318集）でも確認されており、いずれも伏せ焼き法により炭を焼成した炭窯遺構と考えられる。南通遺跡第1号・第2号竪穴遺構は、近接して製鉄遺構が確認されており、これに関連するものと考えられている。時期は、（十和田aまたは白頭山）火山灰を切っており、10世紀以降と考えられている。

本遺跡の第5号土坑は長軸3.15m×短軸1.05m×深さ0.22mと上記例に比べると小規模で、材は笹ノ沢(3)例と同様、径数cmの細いもののが多かった。

古代以降の炭窯遺構は日本各地で確認されており、鉄生産との関連でとらえられることが多かった（利部修 1987『炭焼遺構の分類』『東京・太陽の丘遺跡』駒澤大学考古学研究室）。しかし、伏せ焼き法は、現在でも行われている簡便な製炭法であり、すべての炭焼遺構を鉄生産との関係でとらえることは難しい。規模、施設の違いは生産される炭の違いを反映している可能性も考えられる。第5号土坑では年代を示す資料が発見されなかつたが、現状では上述の類例から古代以降の所産ととらえておく。今後の資料の増加を待ちたい。

（中村・岩田）



遺跡空中写真（南から）



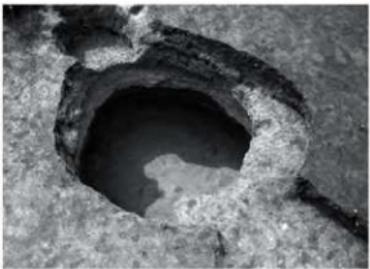
第1号土坑土層堆積状況（北から）



第1号土坑完掘状況（西から）



第2, 3, 4号土坑土層堆積状況（北から）



第2, 3, 4号土坑完掘状況（北から）

写真図版 1



第5号土坑炭化材出土状況（南から）



第10号土坑土層堆積状況（西から）



第9号土坑完掘状況（西から）



第10号土坑完掘状況（北西から）



第2号埋設土器出土状況（北から）



第2号埋設土器土層堆積状況（北から）

写真図版2



SR-01



SR-02



11



13

遺構外出土土器 1
写真図版 3



遺構外出土土器 2
写真図版 4



20



21



23



22



24

遺構外出土土器 3
写真図版 5



25



27



28



31



30

遺構外出土土器4
写真図版6



32



33



34



35



29

遺構外出土土器 5
写真図版 7



36



1



2



5



9



39



41



44



45



50



51



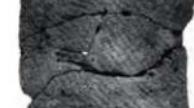
55



59



61



60



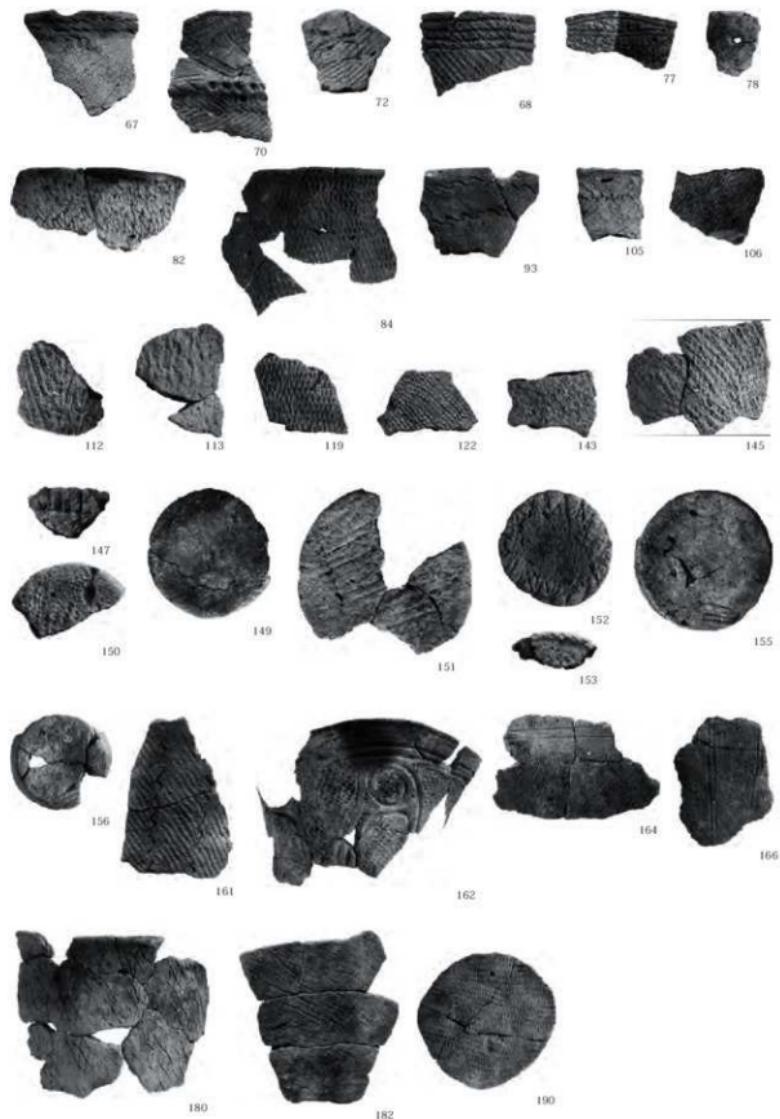
63



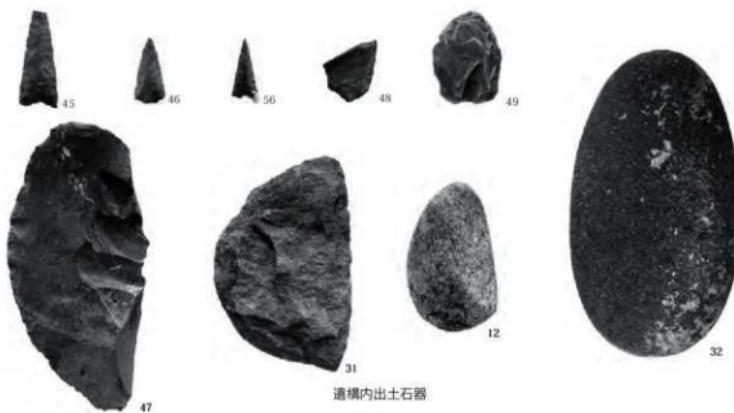
65

遺構外出土土器 6

写真図版 8



遺構外出土土器 7
写真図版 9



遺構内出土石器



遺構外出土石器 1
写真図版 10



遺構外出土石器2
写真図版 11

報告書抄録

ふりがな	ぬかづかおおびらきかっこにいせき							
書名	糠塚大開（2）遺跡							
副書名	八戸環状線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第385集							
編著者名	中村 哲也 岩田 安之							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
発行機関	青森県教育委員会							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15 TEL. 017-788-5701 FAX. 017-788-5702							
発行年月日	2005年3月7日							
所収遺跡名 糠塚大開（2） 遺跡	所在地 青森県八戸市 大字糠塚字大開22、 外	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積	調査原因 八戸環状道路建 設事業に伴う発 掘調査
		市町村 02203	遺跡番号 03278	北緯 40° 29' 4"	東経 141° 29' 30"			
				020701 ~ 020731 3,800 m ²	030603 ~ 030826			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
糠塚大開（2） 遺跡	集落跡	縄文時代 前期	フラスコ状土坑4基 埋設土器2基 土坑6基	土器・石器 土製品				

青森県埋蔵文化財調査報告書 第385集

糠塚大開(2)遺跡

—八戸環状線道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2005年3月7日

発 行 青森県教育委員会

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15

TEL.017-788-5701 FAX.017-788-5702

印 刷 株式会社新印刷興業

〒030-0142 青森市大字野木字野尻37-728

TEL.017-739-6431 FAX.017-762-1804
